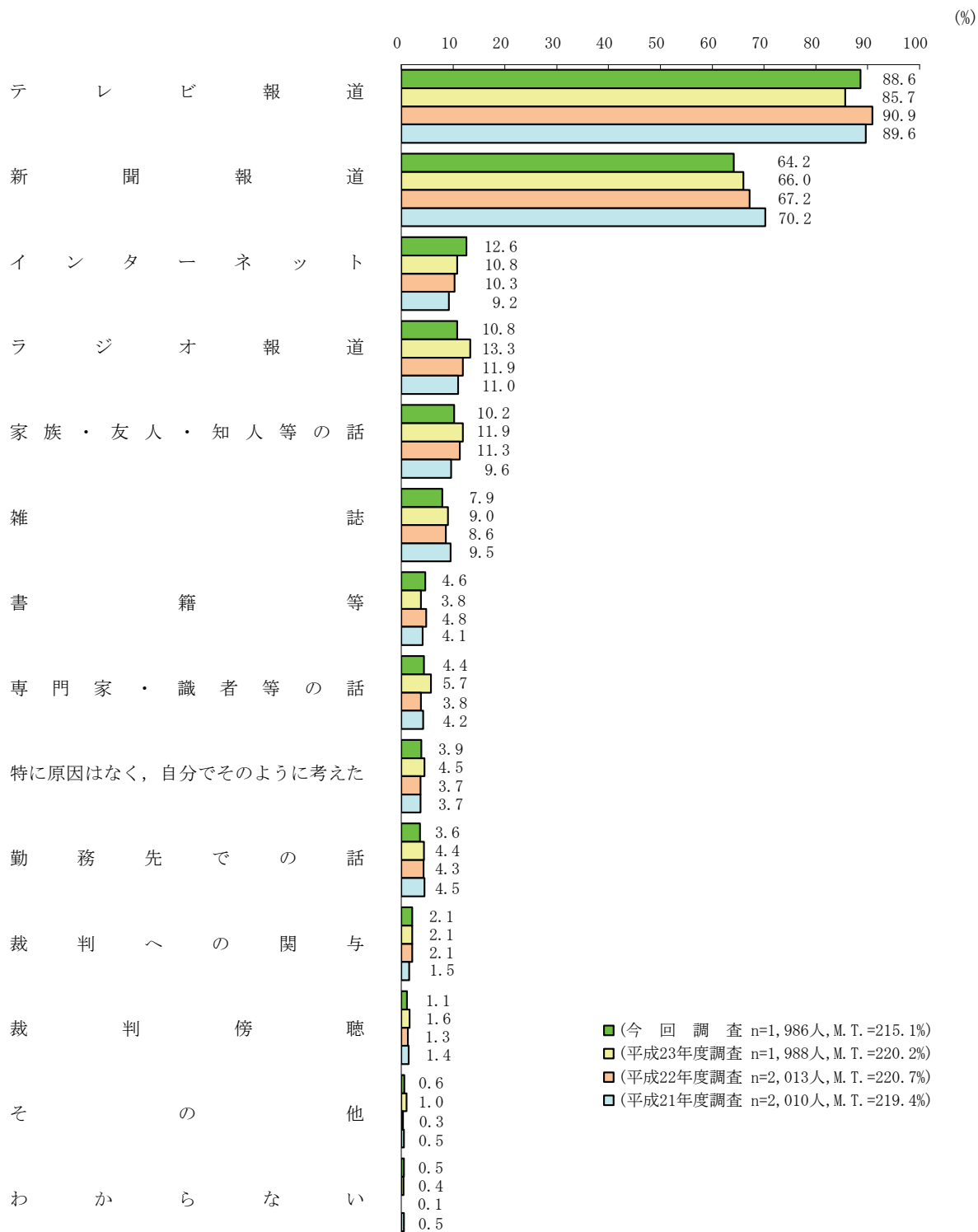


5 裁判員制度が始まる前の刑事裁判についてQ4の印象を持つことになった原因

Q5 [回答票5] あなたが前問のような印象を持つことになった原因は何ですか。当てはまるものを、次の中から全てあげてください。(M. A.)



裁判員制度が始まる前の刑事裁判についてQ4の印象を持つことになった原因を聞いたところ、「テレビ報道」が88.6%と最も高く、次いで「新聞報道」が64.2%であった。以下、「インターネット」(12.6%)、「ラジオ報道」(10.8%)、「家族・友人・知人等の話」(10.2%)となっている。

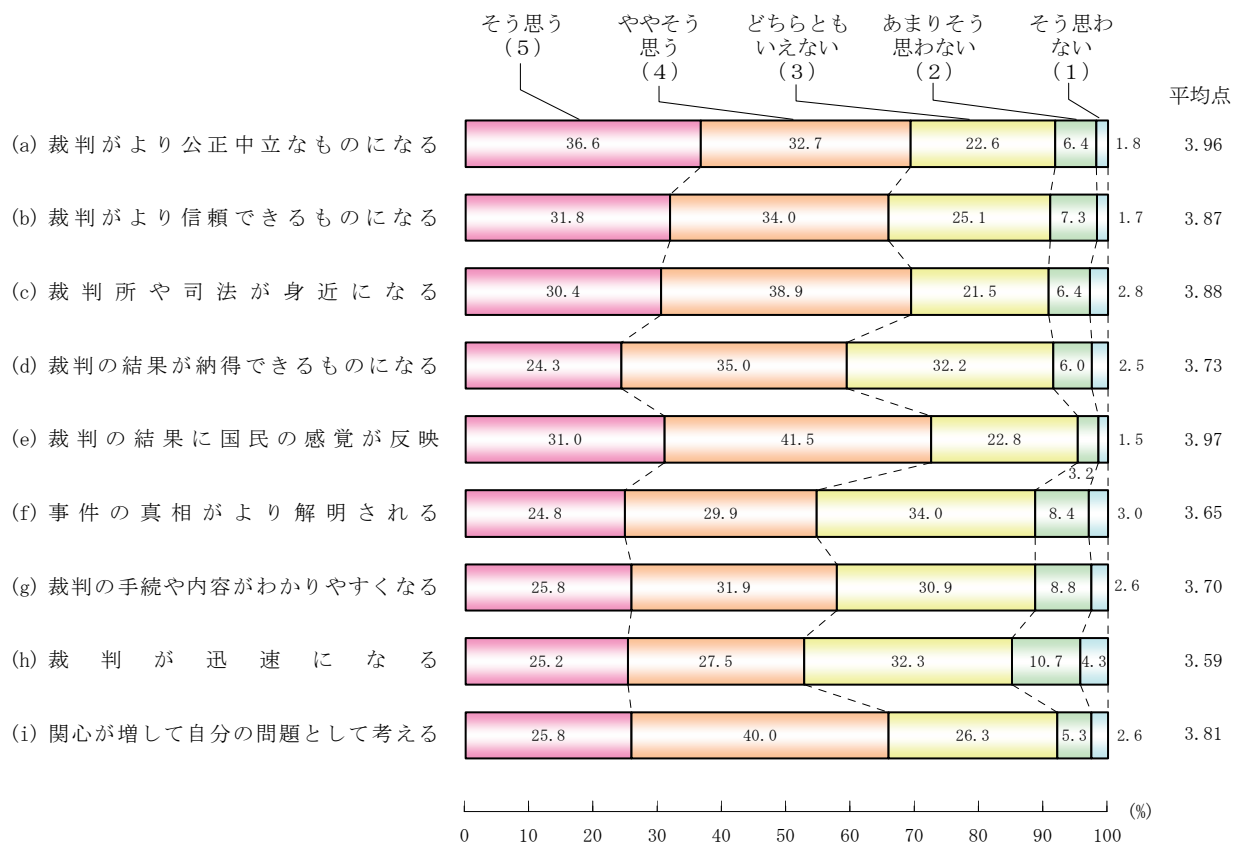
	該当数 (n)	新聞報道	雑誌	書籍等	テレビ報道	ラジオ報道	インターネット	裁判への関与	裁判傍聴	家族・友人・知人等の話	勤務先での話	専門家・識者等の話	特に原因はなく、自分で そう考えた	その他	わからない	回答計
F 1 【性】																
男性	968	69.2	10.4	6.2	86.9	13.1	17.8	3.5	1.9	9.1	5.2	5.5	3.7	0.8	0.2	233.5
女性	1018	59.5	5.5	3.0	90.3	8.6	7.7	0.8	0.4	11.2	2.1	3.4	4.0	0.3	0.8	197.6
F 2 【年齢】																
20～29歳	251	31.5	3.6	2.8	82.9	3.2	24.3	0.8	0.4	8.8	2.4	2.4	7.6	2.4	0.8	173.7
30～39歳	339	52.2	6.8	4.4	86.4	8.3	19.5	2.4	1.2	8.6	5.0	4.1	4.1	-	-	202.9
40～49歳	326	69.6	10.1	6.1	90.2	9.2	16.6	2.1	0.9	11.3	4.3	3.1	2.5	0.3	-	226.4
50～59歳	302	75.8	7.6	4.0	91.7	14.2	12.3	2.6	1.3	11.3	2.6	8.3	2.6	-	0.7	235.1
60～69歳	359	77.4	12.3	6.4	88.6	16.7	7.2	2.5	1.7	10.6	5.3	5.6	4.5	0.8	0.8	240.4
70歳以上	409	69.9	6.1	3.4	90.5	11.2	1.5	2.0	1.0	10.3	1.7	3.2	2.9	0.2	0.7	204.6
F 3 【職業】																
お勤め	625	62.6	9.8	5.4	85.8	9.3	21.4	2.7	1.4	9.0	6.7	5.6	4.0	0.3	0.2	224.2
自営・自由業	265	68.3	8.7	6.4	88.3	18.1	12.8	3.4	1.1	13.6	0.8	5.3	4.2	0.8	0.4	232.1
パート・アルバイト	221	57.0	7.7	4.1	92.8	10.0	8.1	1.4	0.9	12.7	4.1	3.2	2.3	0.5	-	204.5
専業主婦・専業主夫	471	63.5	5.3	2.5	90.7	8.3	6.4	0.8	0.8	10.6	0.6	3.6	4.0	0.2	0.8	198.3
学生	44	40.9	6.8	4.5	72.7	-	27.3	4.5	-	4.5	2.3	4.5	18.2	4.5	2.3	193.2
無職	352	72.4	7.7	4.3	90.3	13.4	6.3	2.0	0.9	8.2	4.0	3.7	2.6	0.9	0.9	217.3
その他	8	75.0	12.5	25.0	100.0	12.5	-	-	12.5	12.5	-	-	-	-	-	250.0

男女別にみると、「新聞報道」、「ラジオ報道」、「インターネット」は男性で高く、「テレビ報道」は女性で高くなっている。年齢別では、「新聞報道」は50代以上で、「インターネット」は30代以下でそれぞれ高くなっている。

6 裁判員制度の実施により期待すること

Q6 [回答票6] あなたが裁判員制度の実施により期待することは何ですか。次の(a)～(i)の項目について、次の中から最も当てはまるものを1つ選んでください。

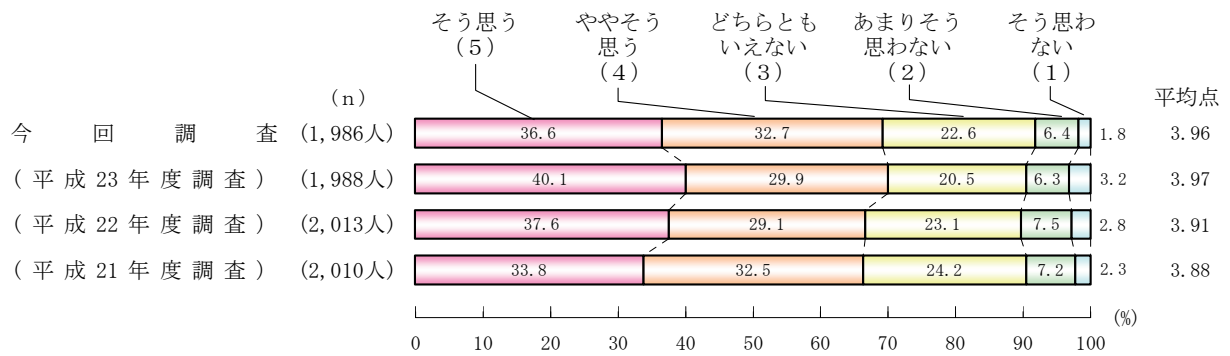
(n=1,986人)



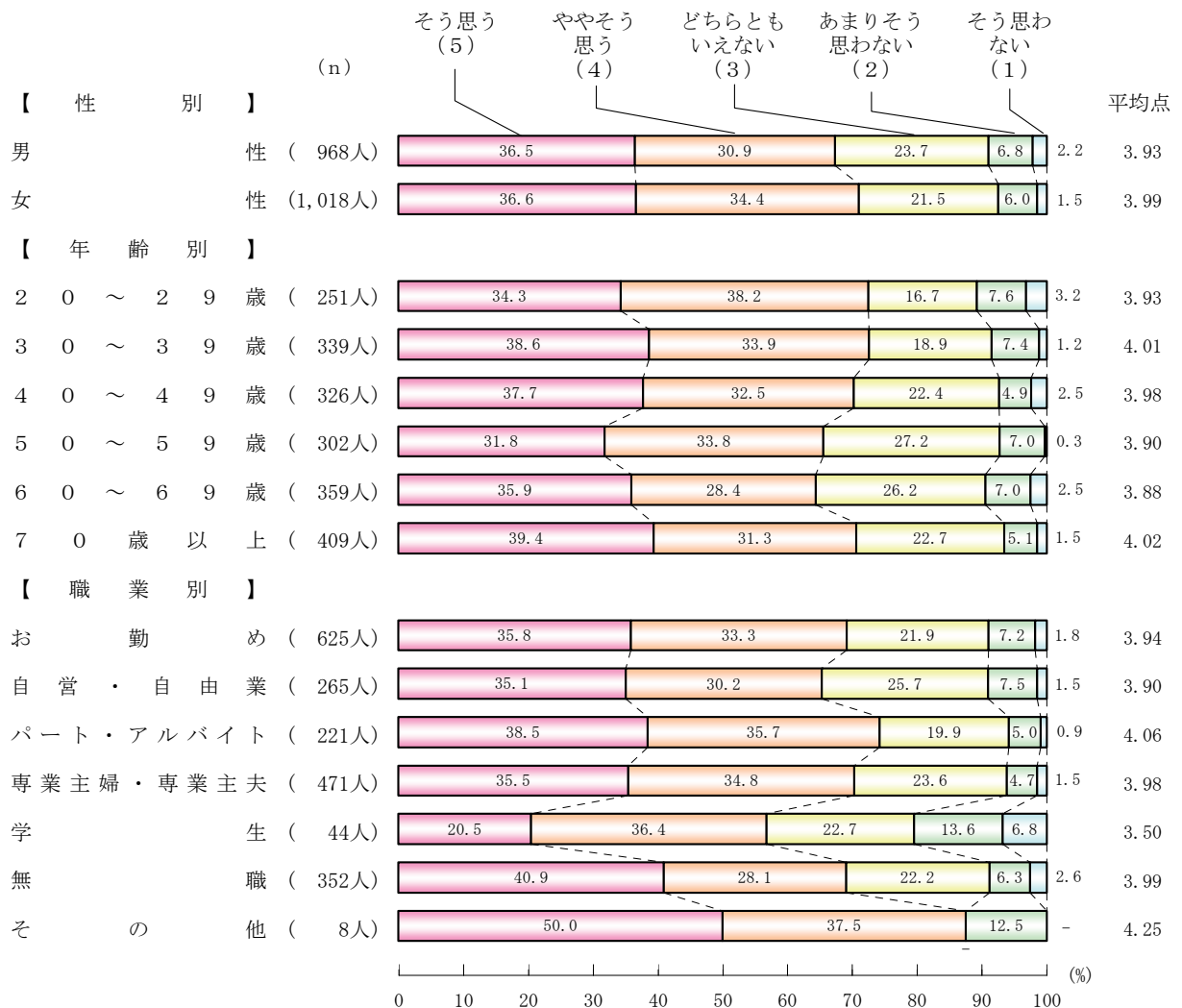
* 平均点は「そう思う」5点、「ややそう思う」4点、「どちらともいえない」3点、「あまりそう思わない」2点、「そう思わない」1点でウエイト処理したものである。

裁判員制度の実施により期待することを、9項目の内容について聞いたところ、平均点が最も高かったのが『裁判の結果（判断）に国民の感覚が反映されやすくなる』（3.97点）、以下、『裁判がより公正中立なものになる』（3.96点）、『裁判所や司法が身近になる』（3.88点）、『裁判がより信頼できるものになる』（3.87点）、『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになる』（3.81点）、『裁判の結果（判断）がより納得できるものになる』（3.73点）、『裁判の手續や内容がわかりやすくなる』（3.70点）、『事件の真相がより解明される』（3.65点）、『裁判が迅速になる』（3.59点）となっている。

Q6 (a) 裁判がより公正中立なものになる

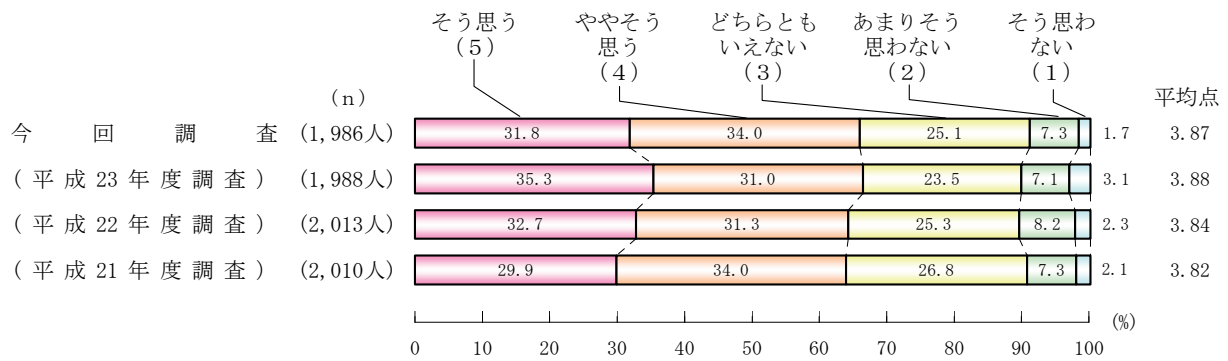


裁判員制度の実施により『裁判がより公正中立なものになる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 69.2%，『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は 8.2%である。

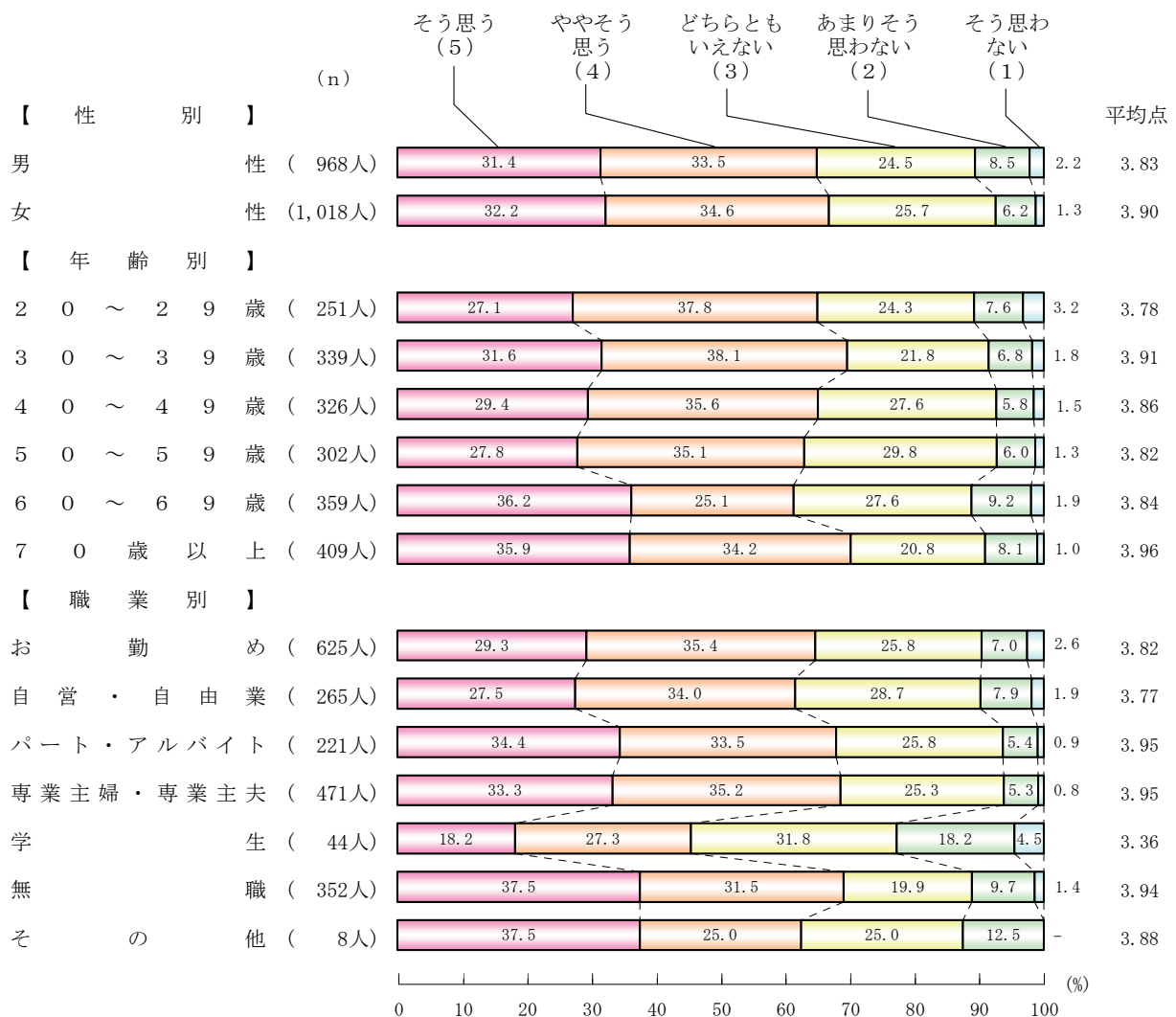


『裁判がより公正中立なものになる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、60代が最も低く、職業別では、学生が最も低くなっている。

Q6 (b) 裁判がより信頼できるものになる

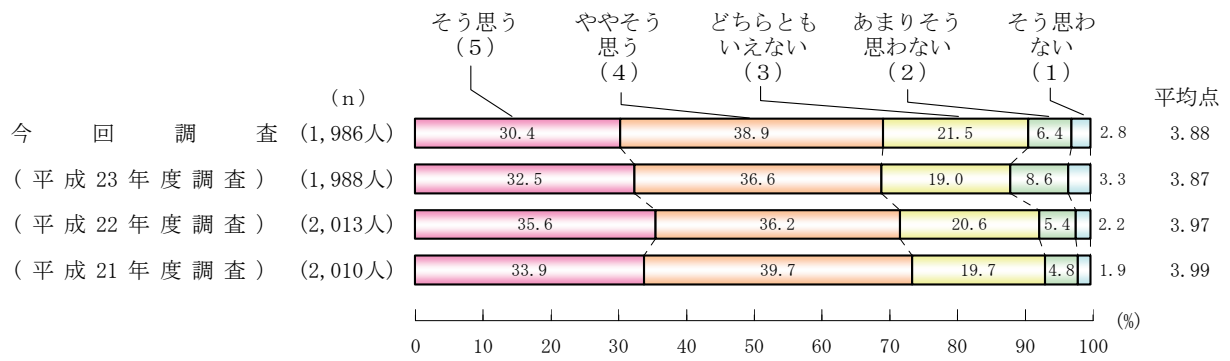


裁判員制度の実施により『裁判がより信頼できるものになる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は65.9%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は9.0%である。

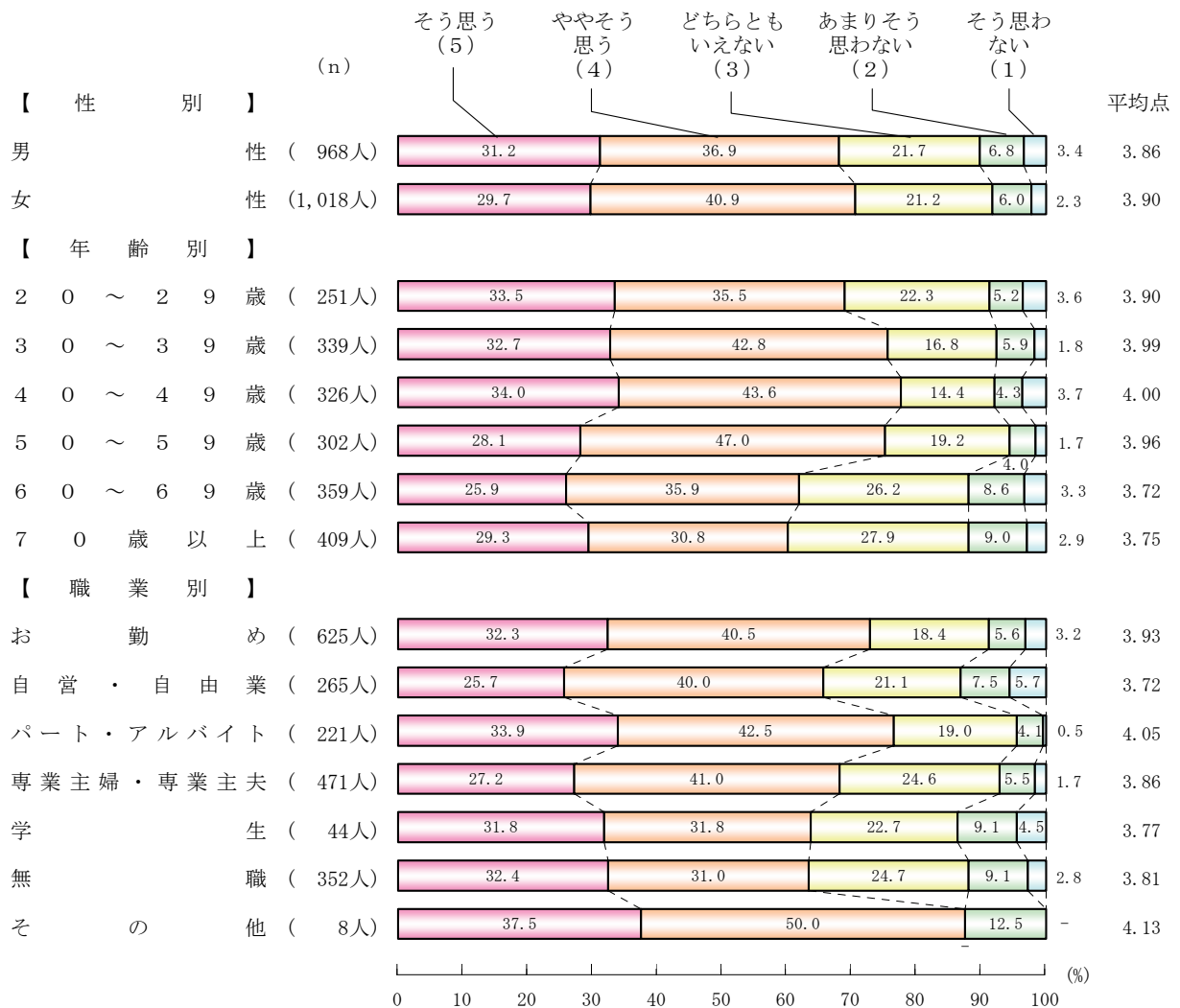


『裁判がより信頼できるものになる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、60代が最も低く、70歳以上が最も高くなっている。職業別では、学生が最も低くなっている。

Q6 (c) 裁判所や司法が身近になる

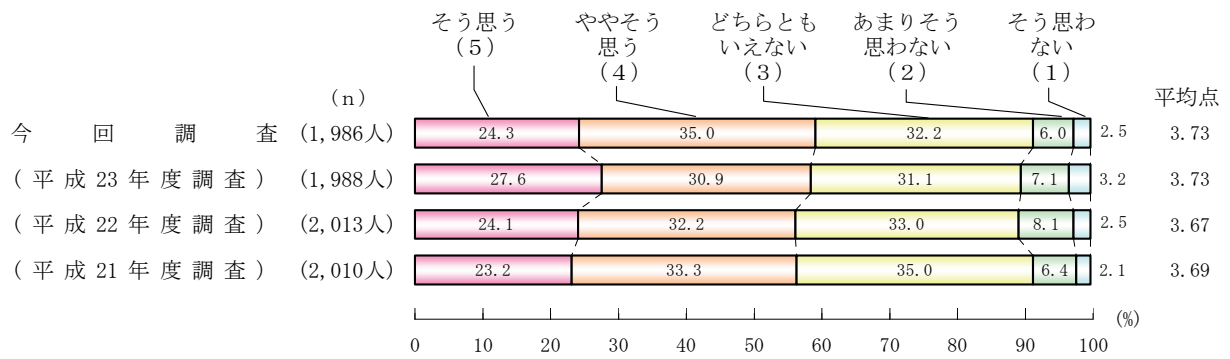


裁判員制度の実施により『裁判所や司法が身近になる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は69.3%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は9.2%である。

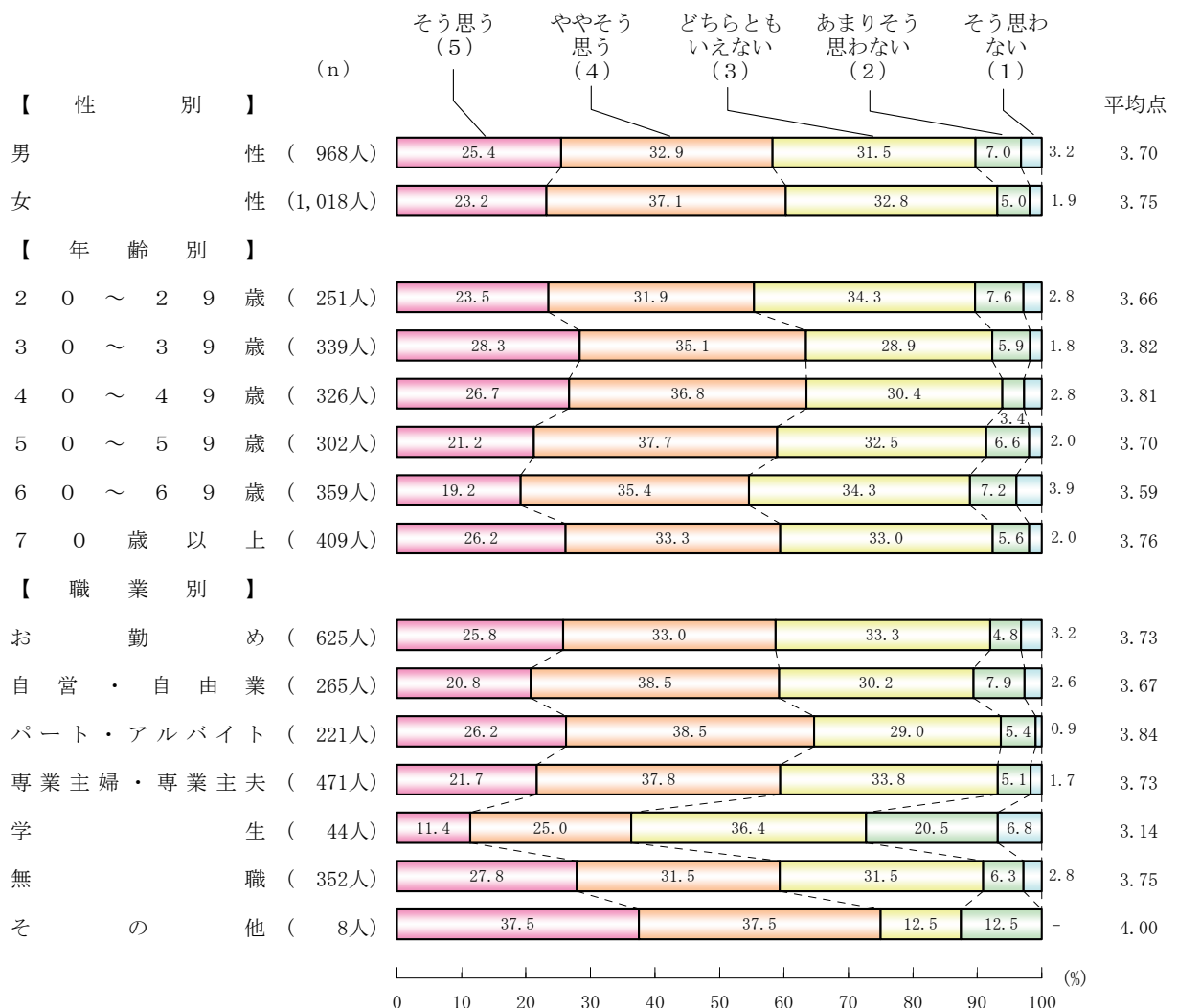


『裁判所や司法が身近になる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、40代が最も高く、70歳以上が最も低くなっている。職業別では、パート・アルバイトが最も高く、無職が最も低くなっている。

Q6 (d) 裁判の結果(判断)がより納得できるものになる

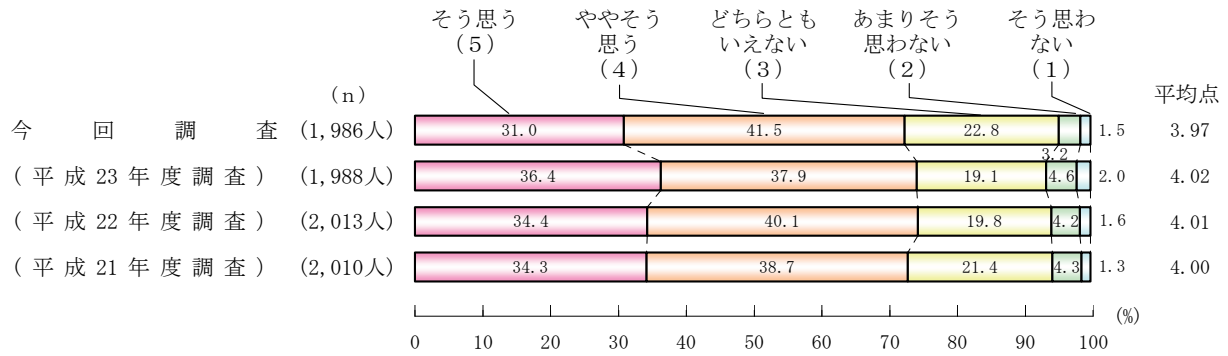


裁判員制度の実施により『裁判の結果(判断)がより納得できるものになる』ことに対する期待では、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)は59.3%、『そう思わない』(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)は8.5%である。

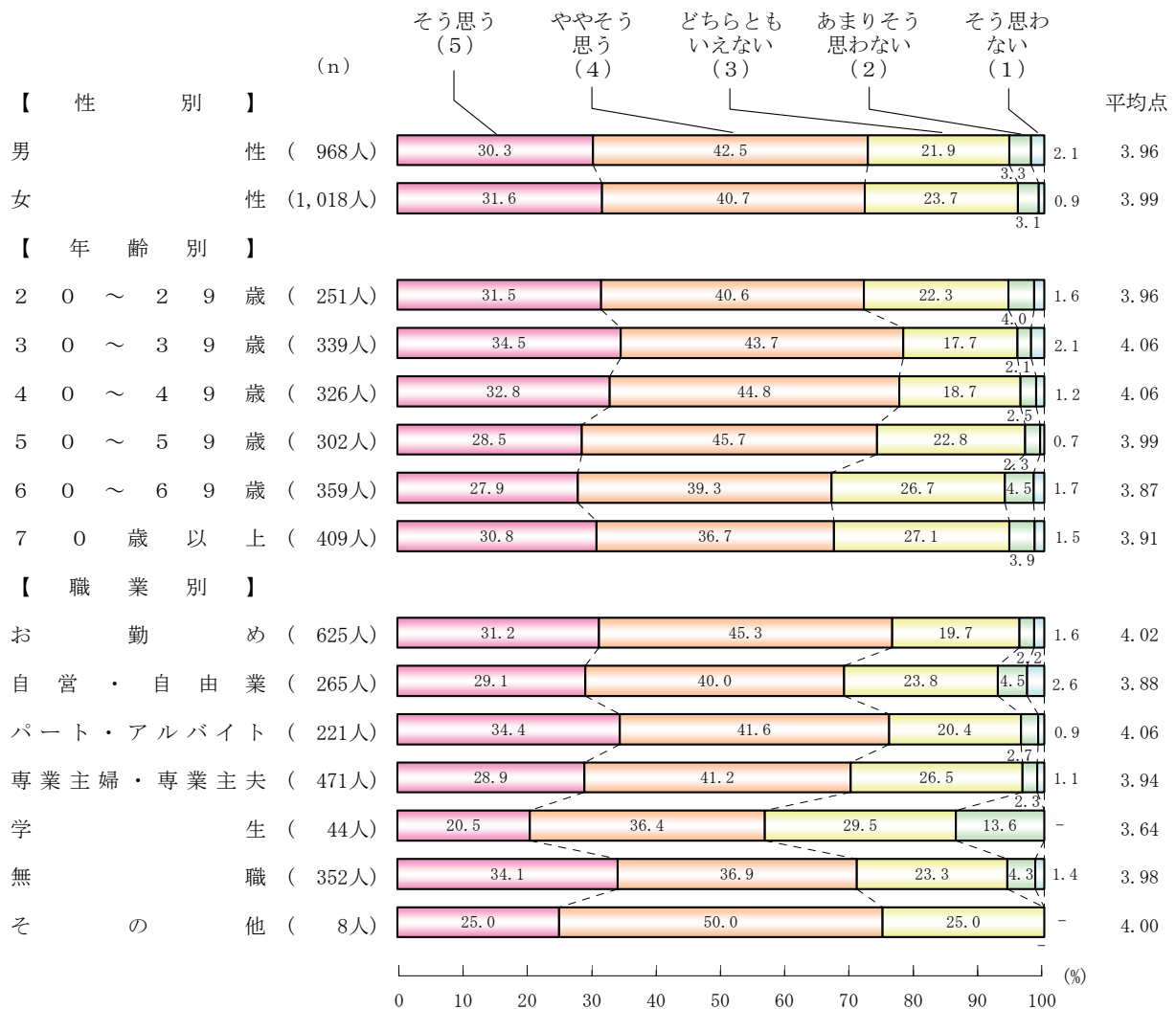


『裁判の結果(判断)がより納得できるものになる』ことに対する期待について、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、60代が最も低く、職業別では、学生が最も低くなっている。

Q6 (e) 裁判の結果（判断）に国民の感覚が反映されやすくなる

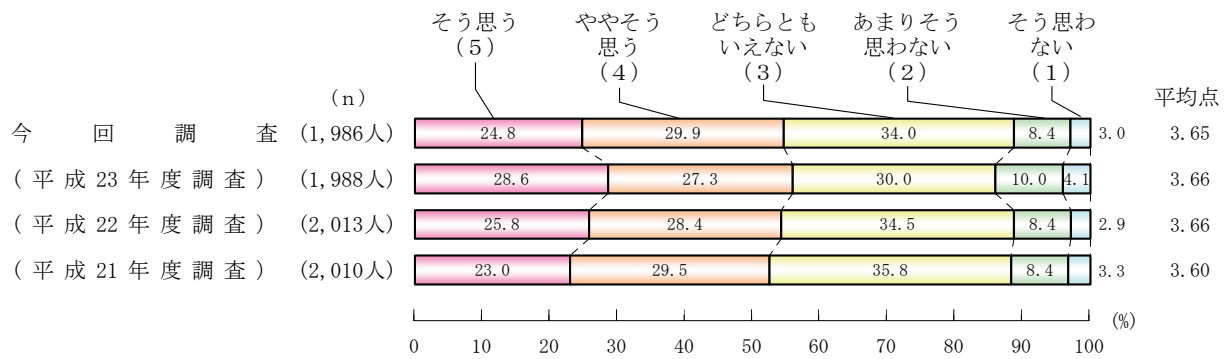


裁判員制度の実施により『裁判の結果（判断）に国民の感覚が反映されやすくなる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は72.5%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は4.7%である。

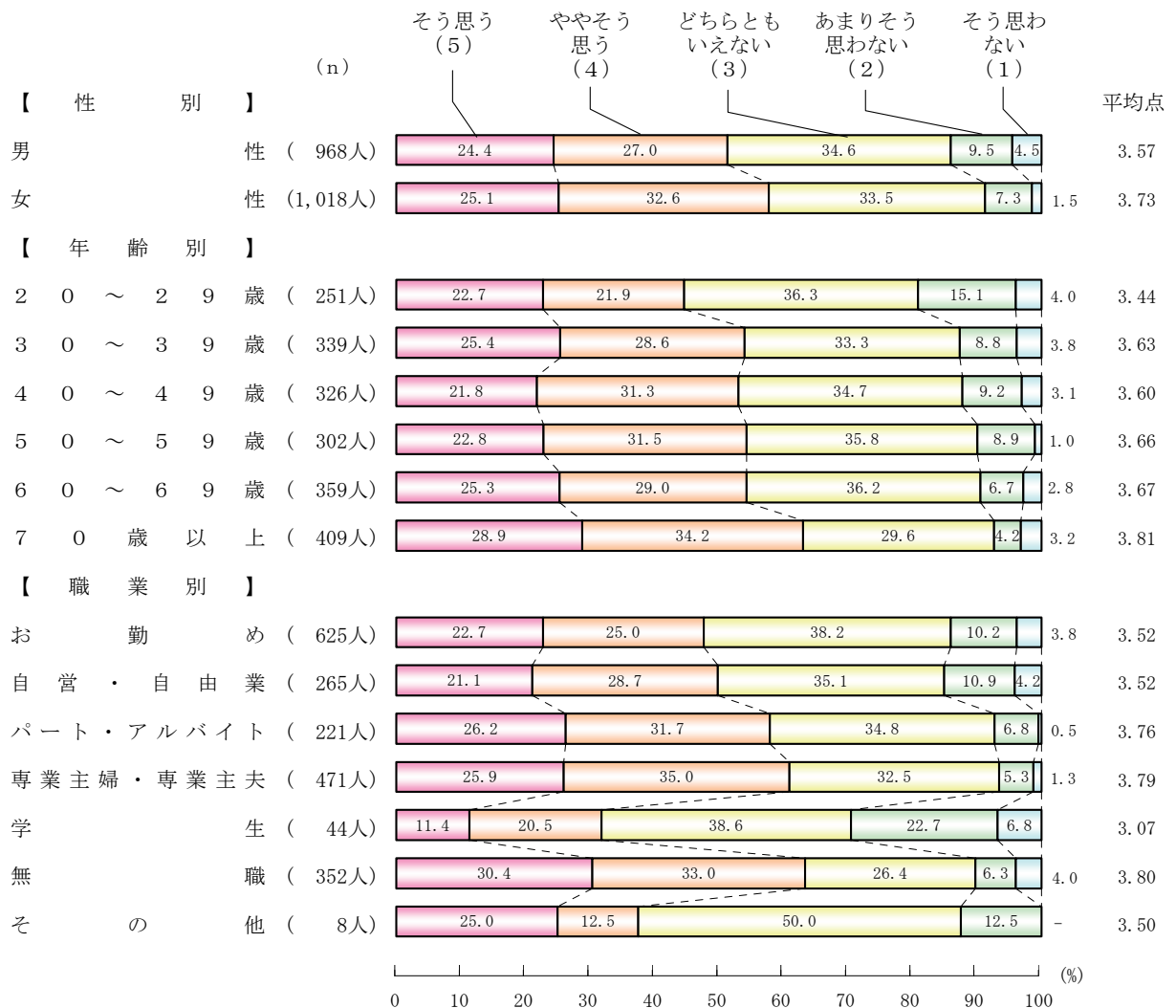


『裁判の結果（判断）に国民の感覚が反映されやすくなる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、30代が最も高く、60代が最も低くなっている。職業別では、お勤めが最も高く、学生が最も低くなっている。

Q6 (f) 事件の真相がより解明される

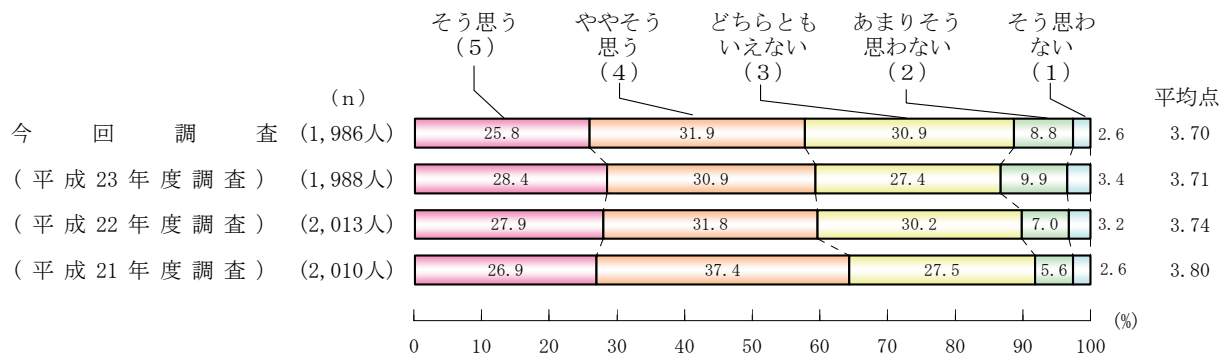


裁判員制度の実施により『事件の真相がより解明される』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は54.6%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は11.3%である。

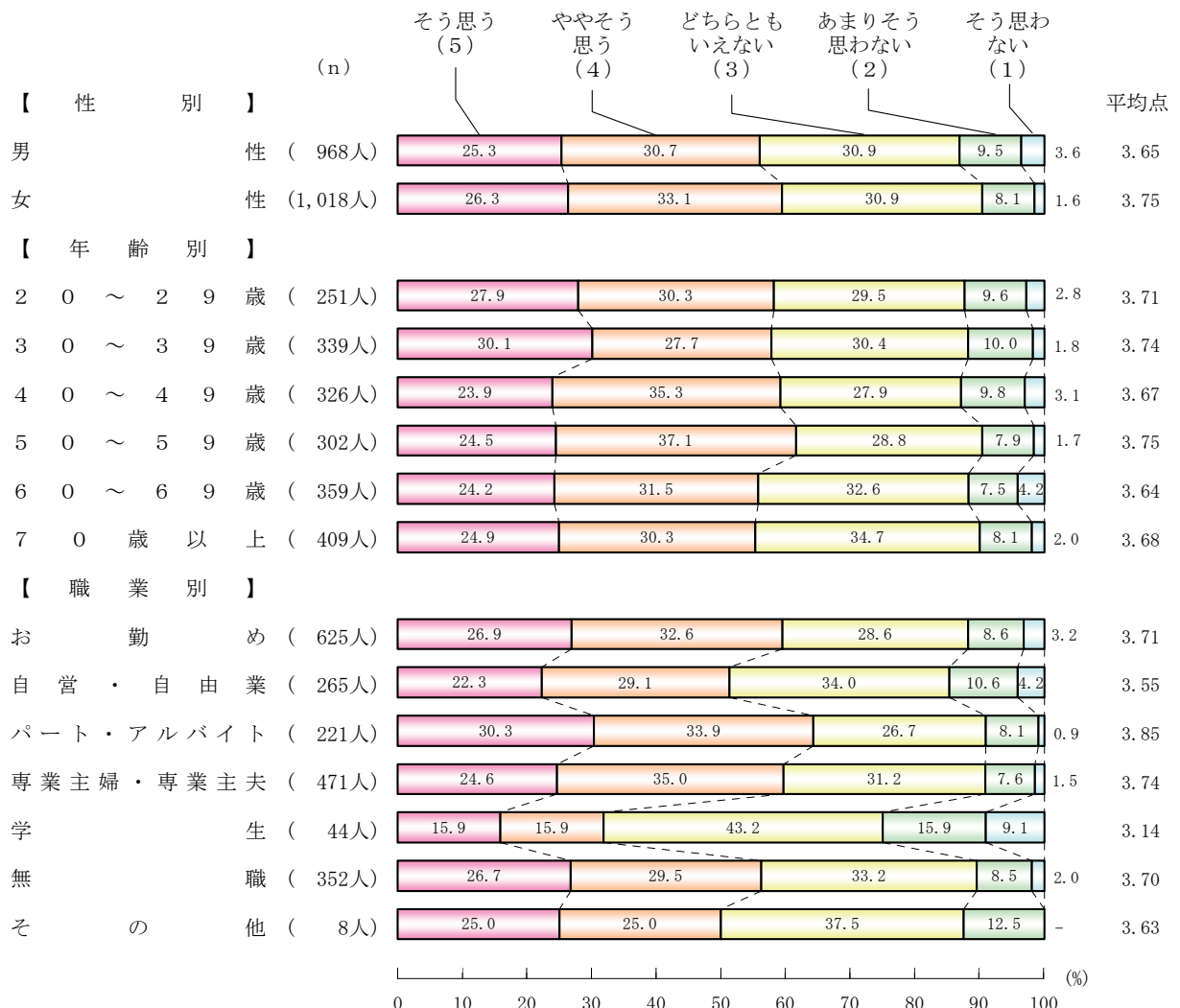


『事件の真相がより解明される』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、女性が高くなっている。年齢別では、70歳以上が最も高く、20代が最も低くなっている。職業別では、無職が最も高く、学生が最も低くなっている。

Q6 (g) 裁判の手續や内容がわかりやすくなる

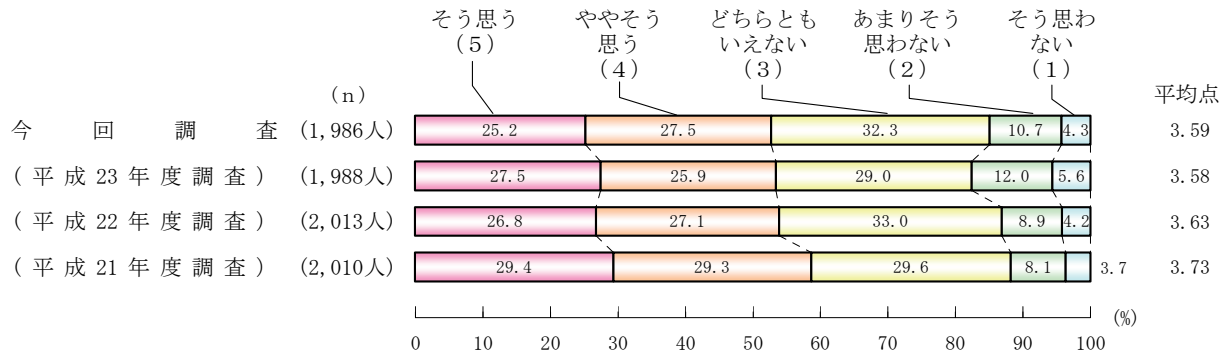


裁判員制度の実施により『裁判の手續や内容がわかりやすくなる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は57.8%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は11.3%であった。

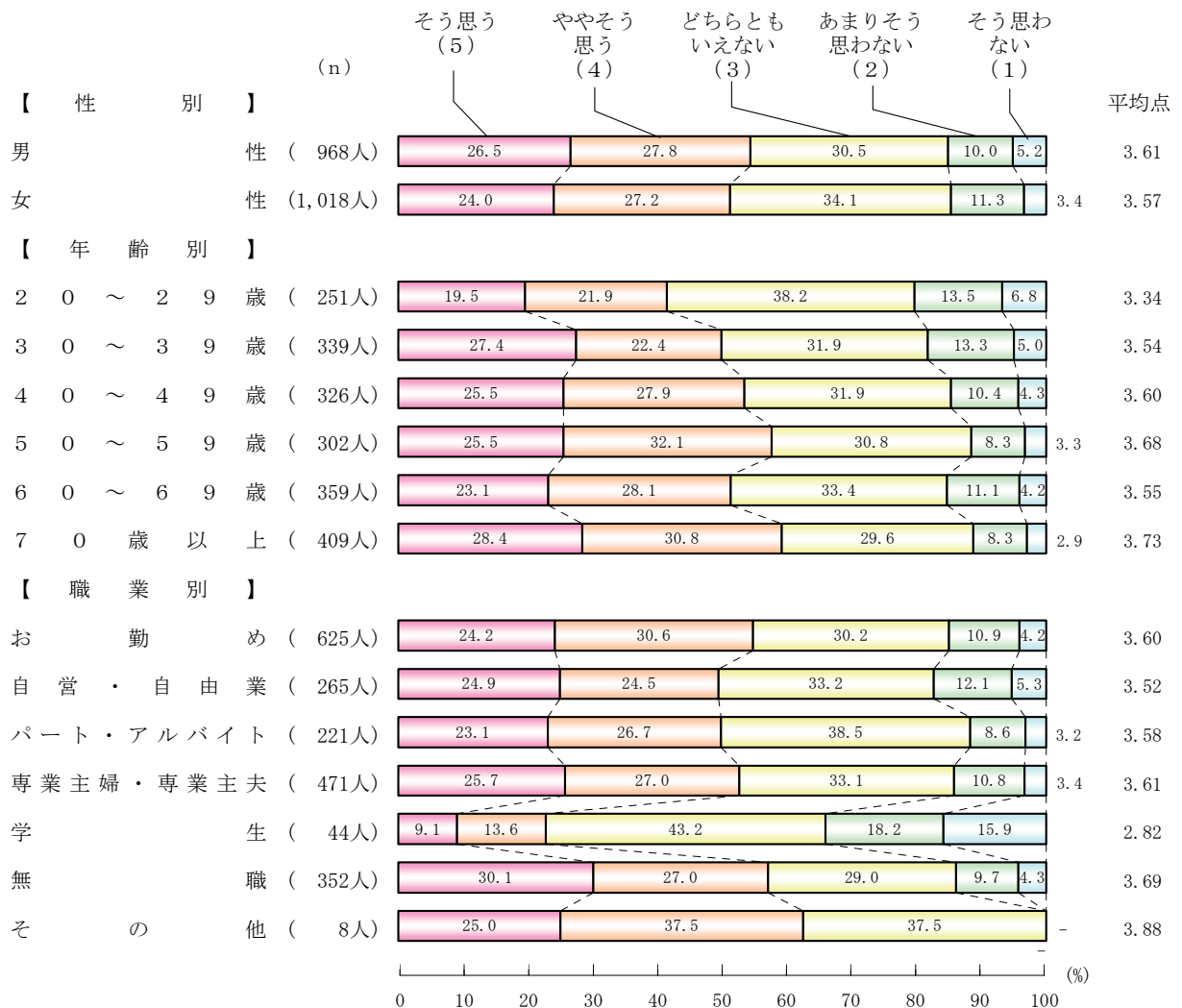


『裁判の手續や内容がわかりやすくなる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別・年齢別では、大きな差はみられない。職業別では、パート・アルバイトが最も高く、学生が最も低くなっている。

Q6 (h) 裁判が迅速になる

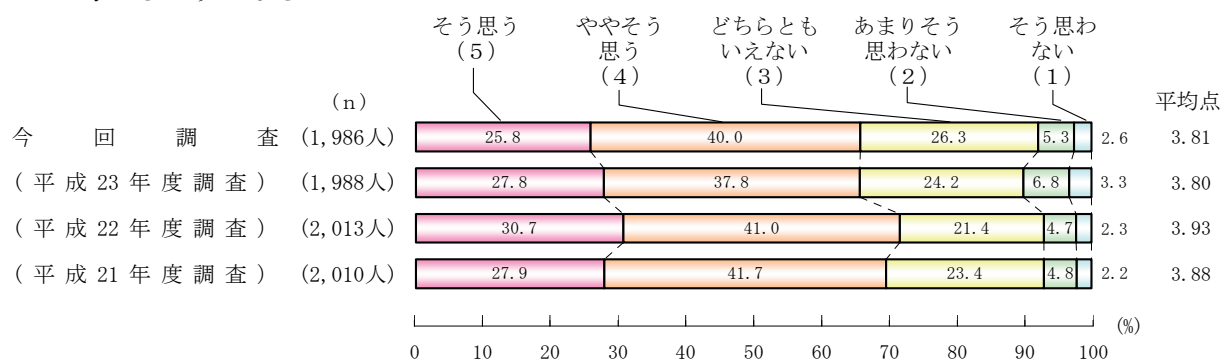


裁判員制度の実施により『裁判が迅速になる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 52.7%，『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は 15.0%であった。

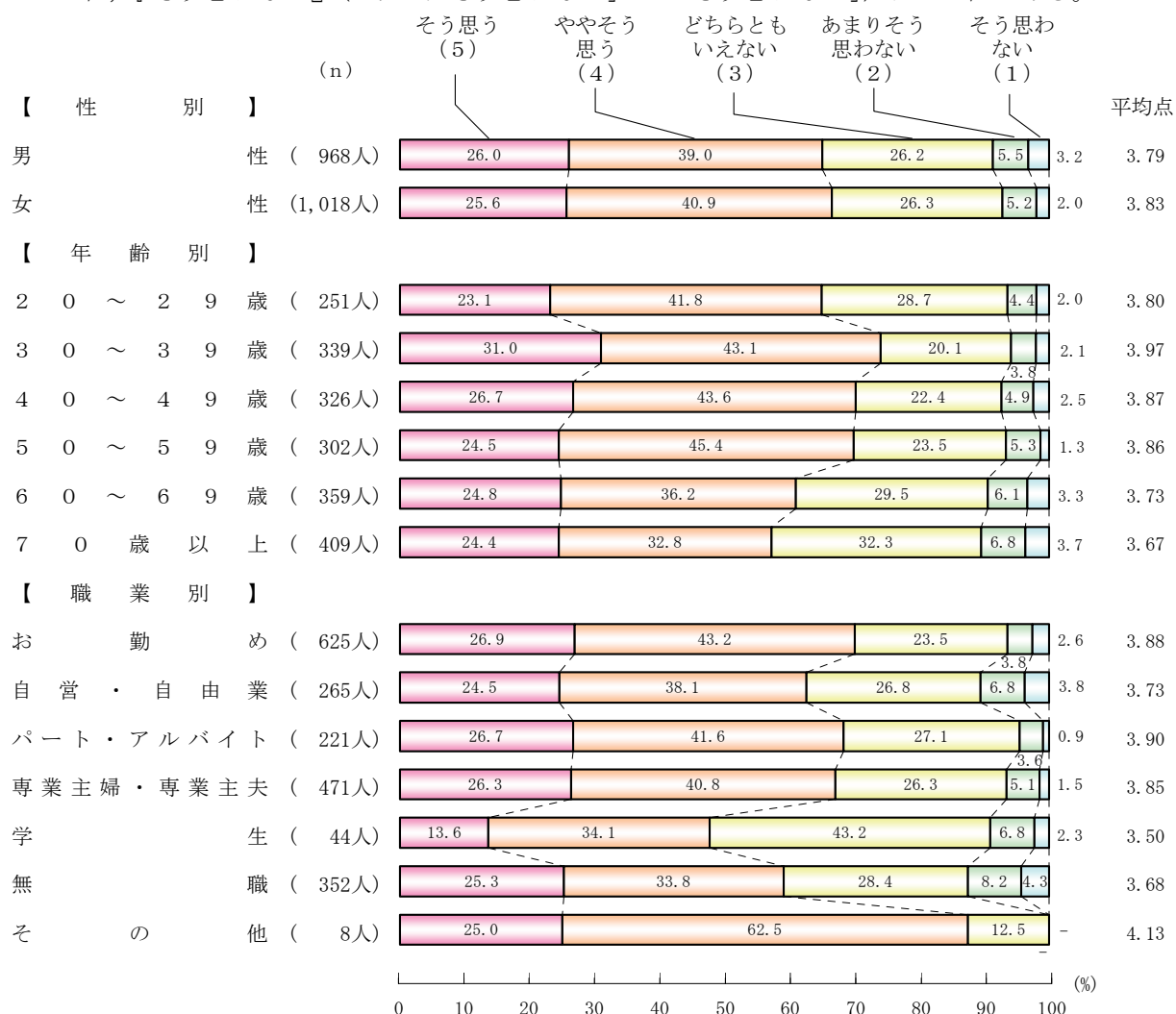


『裁判が迅速になる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、20代が最も低く、70歳以上が最も高くなっている。職業別では、学生が最も低くなっている。

Q6 (i) 刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになる



裁判員制度の実施により『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は65.8%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は7.9%である。

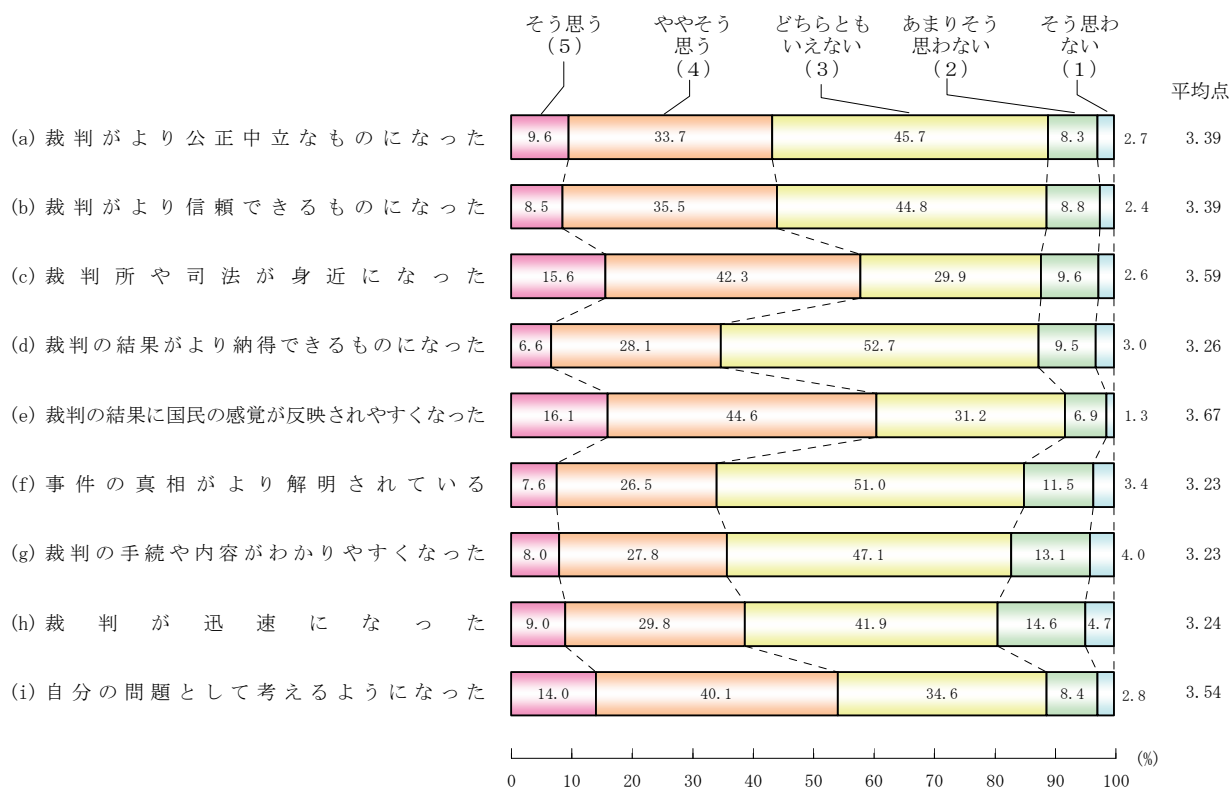


『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、30代が最も高く、70歳以上が最も低くなっている。職業別ではお勤めが最も高く、学生が最も低くなっている。

7 現在実施されている裁判員制度の印象

Q7 [回答票7] あなたは、現在実施されている裁判員制度について、どのような印象を持っていますか。次の(a)～(i)の項目について、次の中から最も当てはまるものを1つ選んでください。

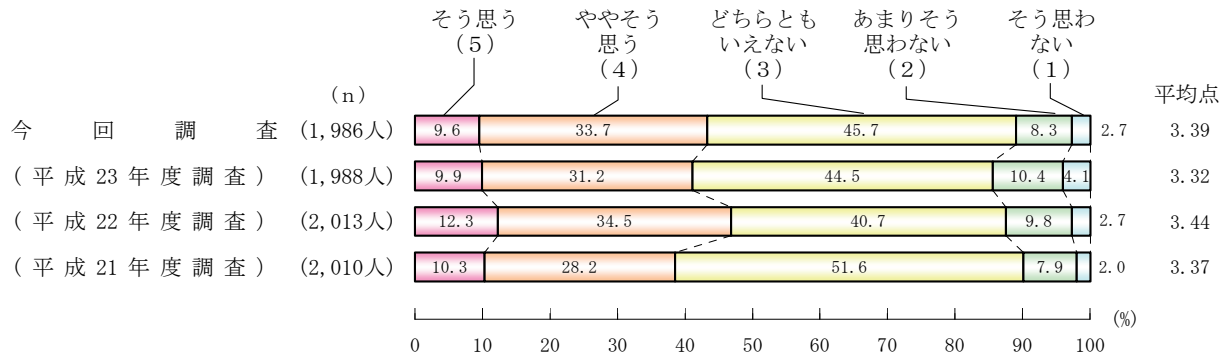
(n=1,986人)



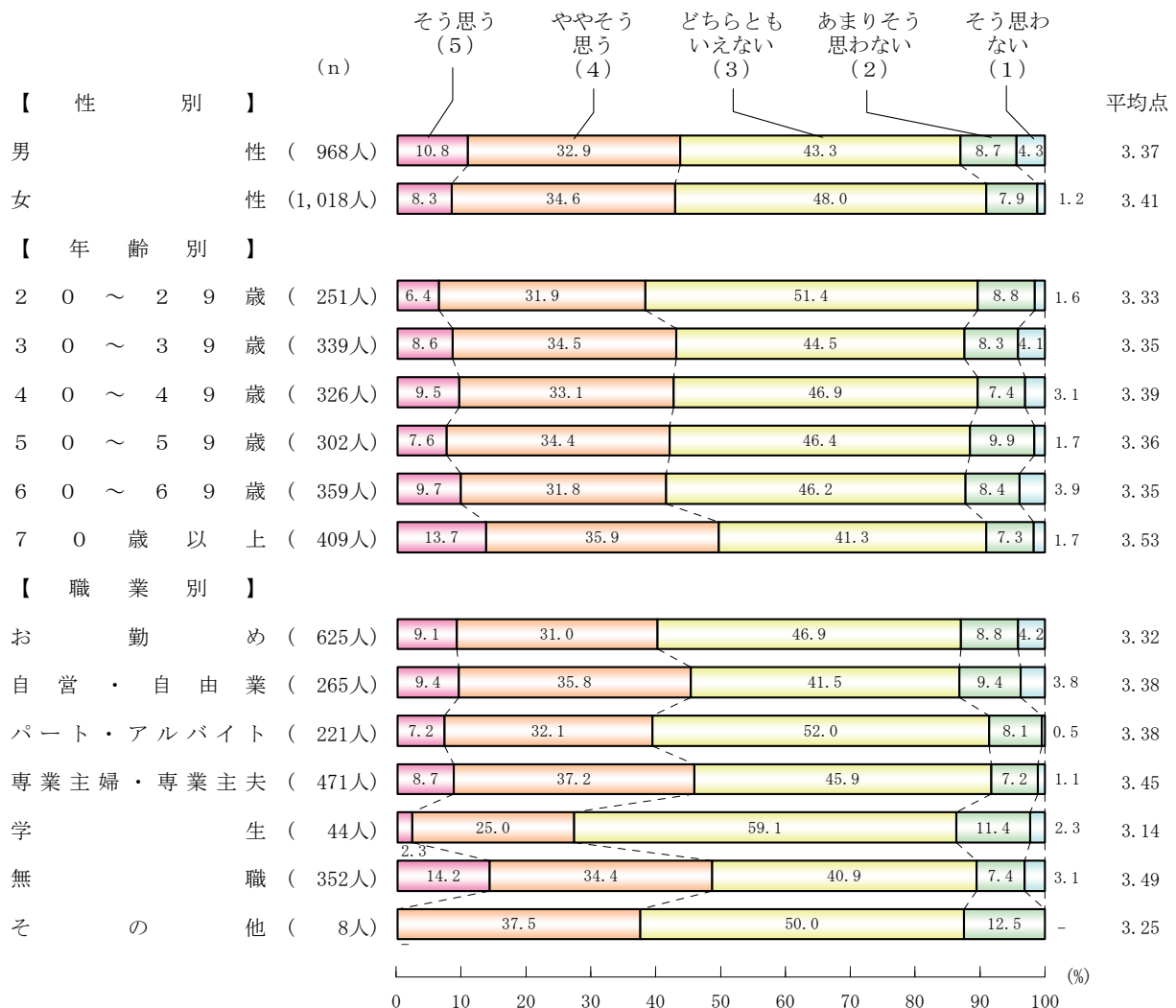
* 平均点は「そう思う」5点、「ややそう思う」4点、「どちらともいえない」3点、「あまりそう思わない」2点、「そう思わない」1点でウエイト処理したものである。

現在実施されている裁判員制度について、どのような印象を持っているか、9項目の内容について聞いたところ、平均点が最も高かったのが『裁判の結果（判断）に国民の感覚が反映されやすくなった』（3.67点）、以下、『裁判所や司法が身近になった』（3.59点）、『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになった』（3.54点）、『裁判がより公正中立なものになった』（3.39点）、『裁判がより信頼できるものになった』（3.39点）、『裁判の結果（判断）がより納得できるものになった』（3.26点）、『裁判が迅速になった』（3.24点）、『事件の真相がより解明されている』（3.23点）、『裁判の手続や内容がわかりやすくなった』（3.23点）となっている。

Q7 (a) 裁判がより公正中立なものになった

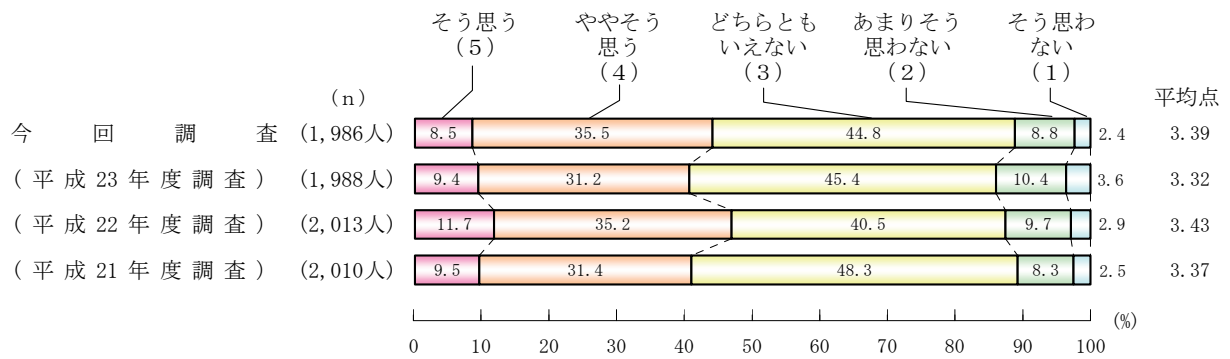


裁判員制度実施後の変化として『裁判がより公正中立なものになった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は43.3%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は11.0%である。

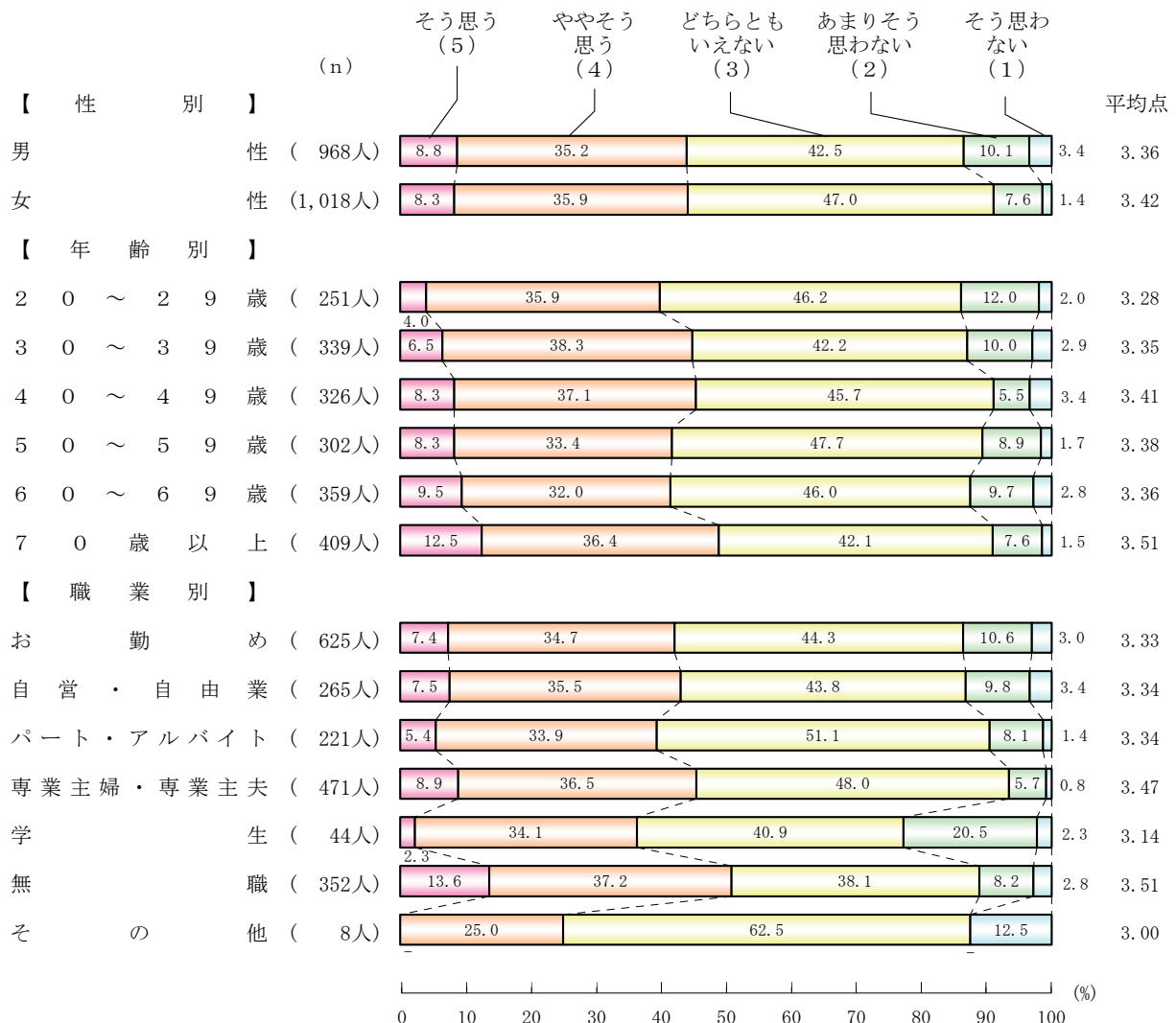


『裁判がより公正中立なものになった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、70歳以上が最も高く、職業別では、学生が最も低く、無職が最も高くなっている。

Q7 (b) 裁判がより信頼できるものになった

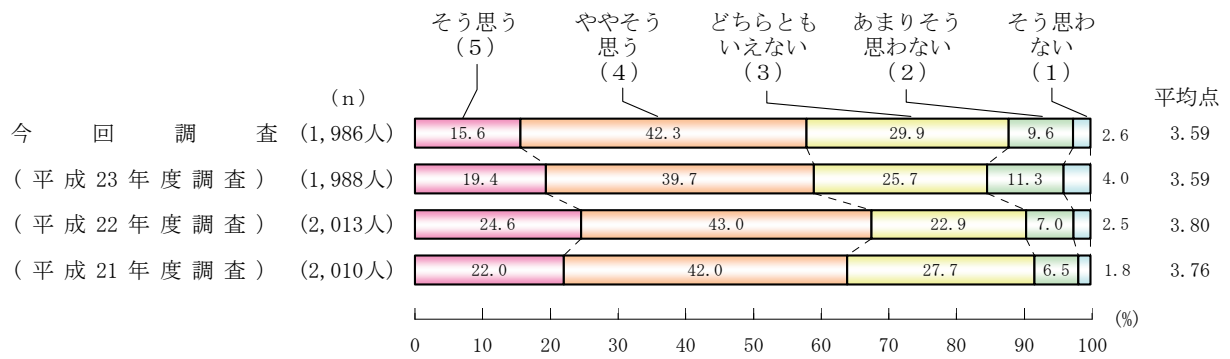


裁判員制度実施後の変化として『裁判がより信頼できるものになった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は44.1%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は11.2%である。

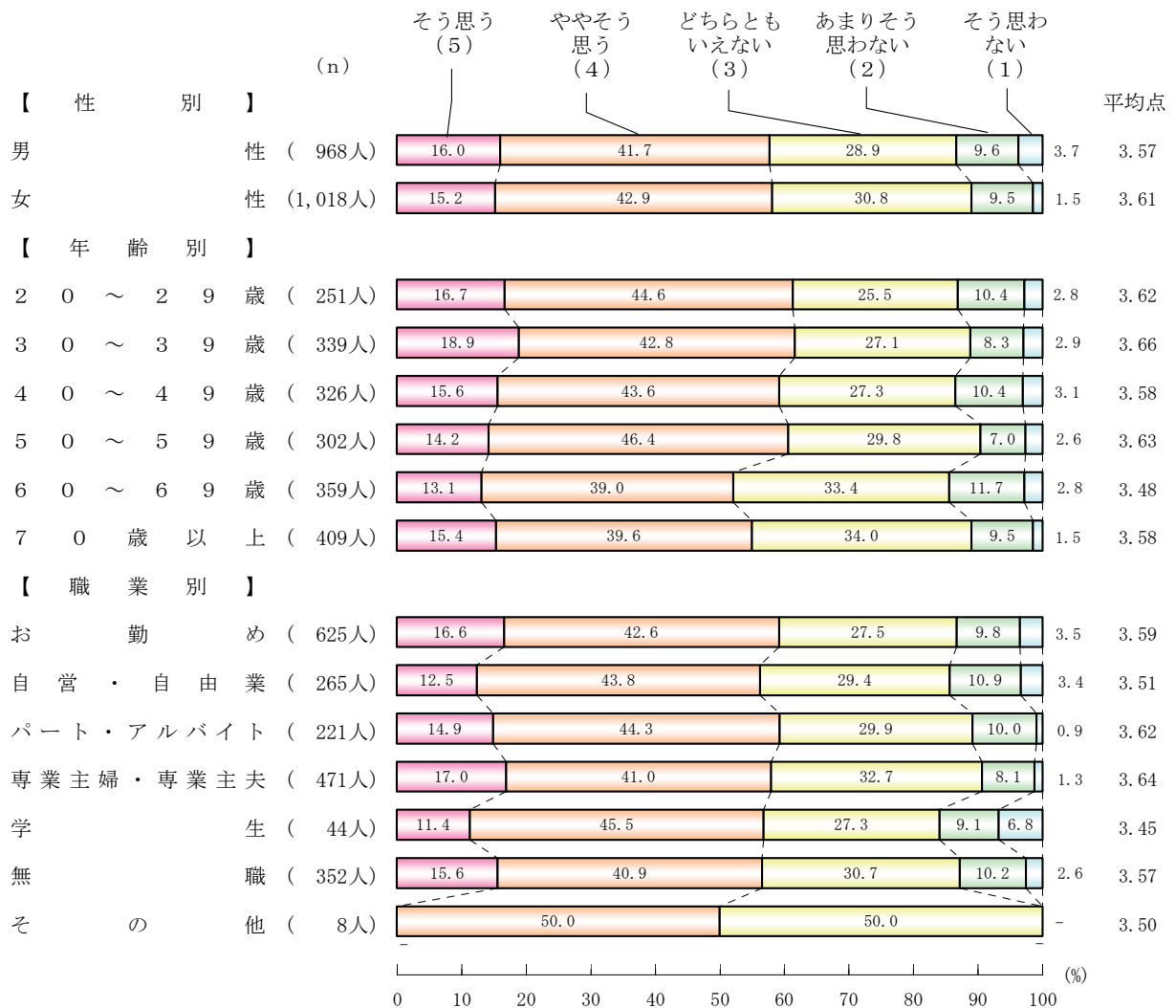


『裁判がより信頼できるものになった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、70歳以上が最も高く、職業別では、無職が最も高くなっている。

Q7 (c) 裁判所や司法が身近になった

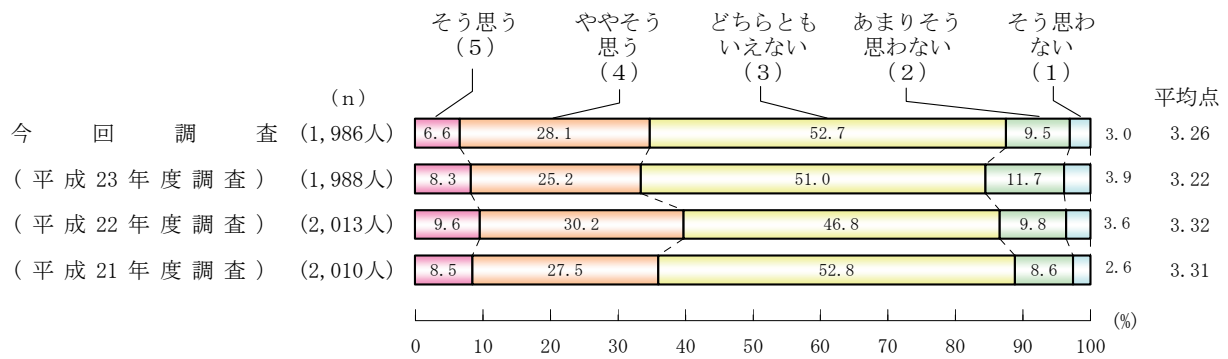


裁判員制度実施後の変化として『裁判所や司法が身近になった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は58.0％、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は12.1％である。

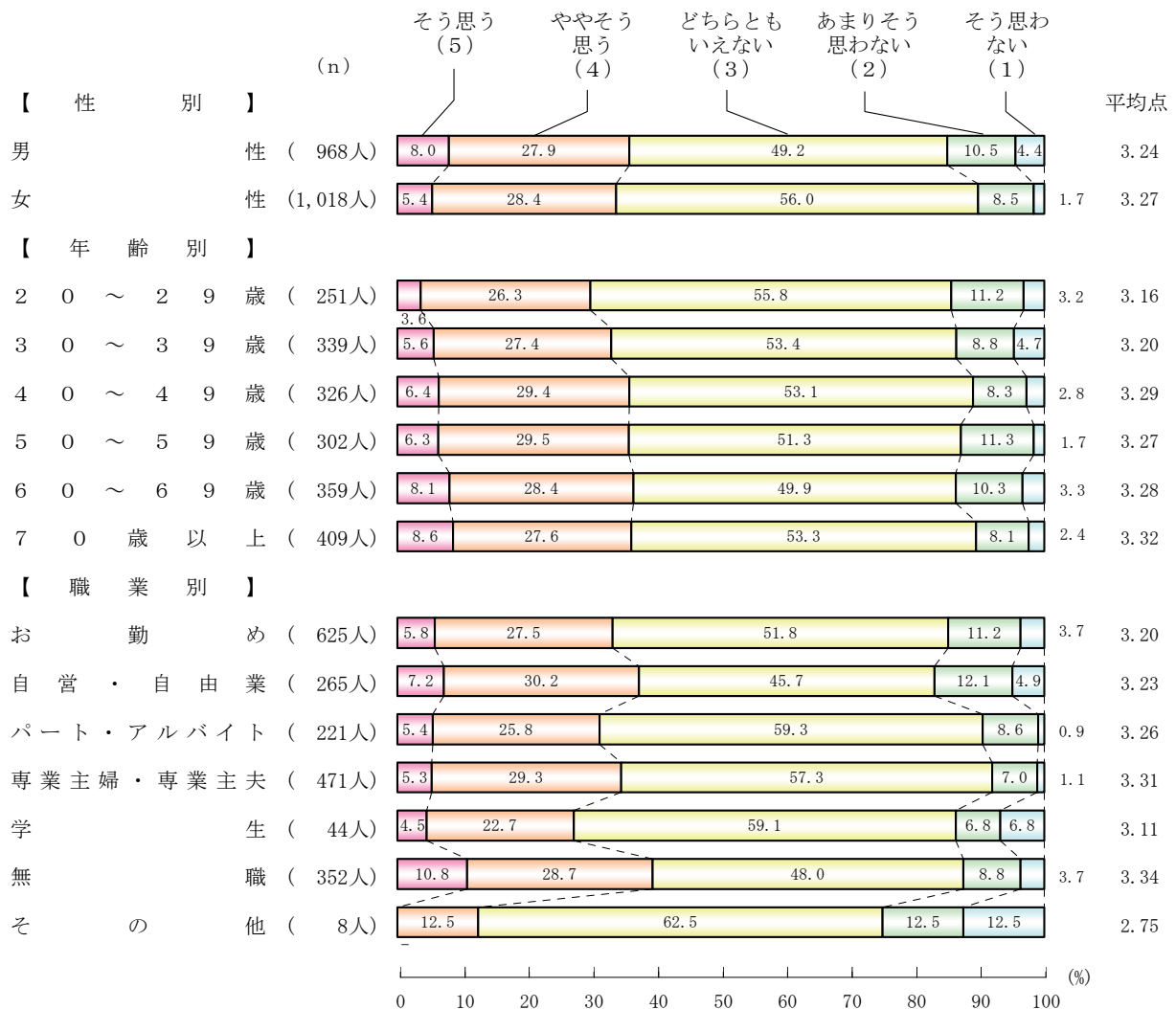


『裁判所や司法が身近になった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、60代が最も低く、職業別では、大きな差はみられない。

Q7 (d) 裁判の結果（判断）がより納得できるものになった

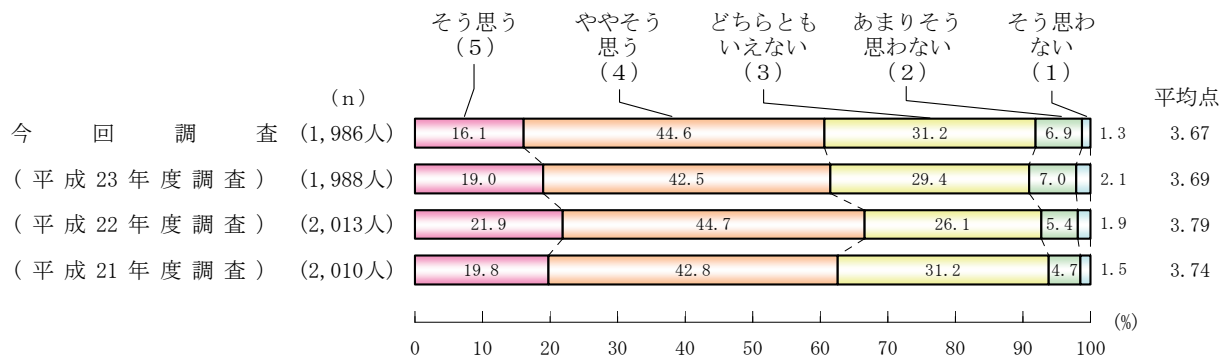


裁判員制度実施後の変化として『裁判の結果（判断）がより納得できるものになった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は34.8%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は12.5%である。

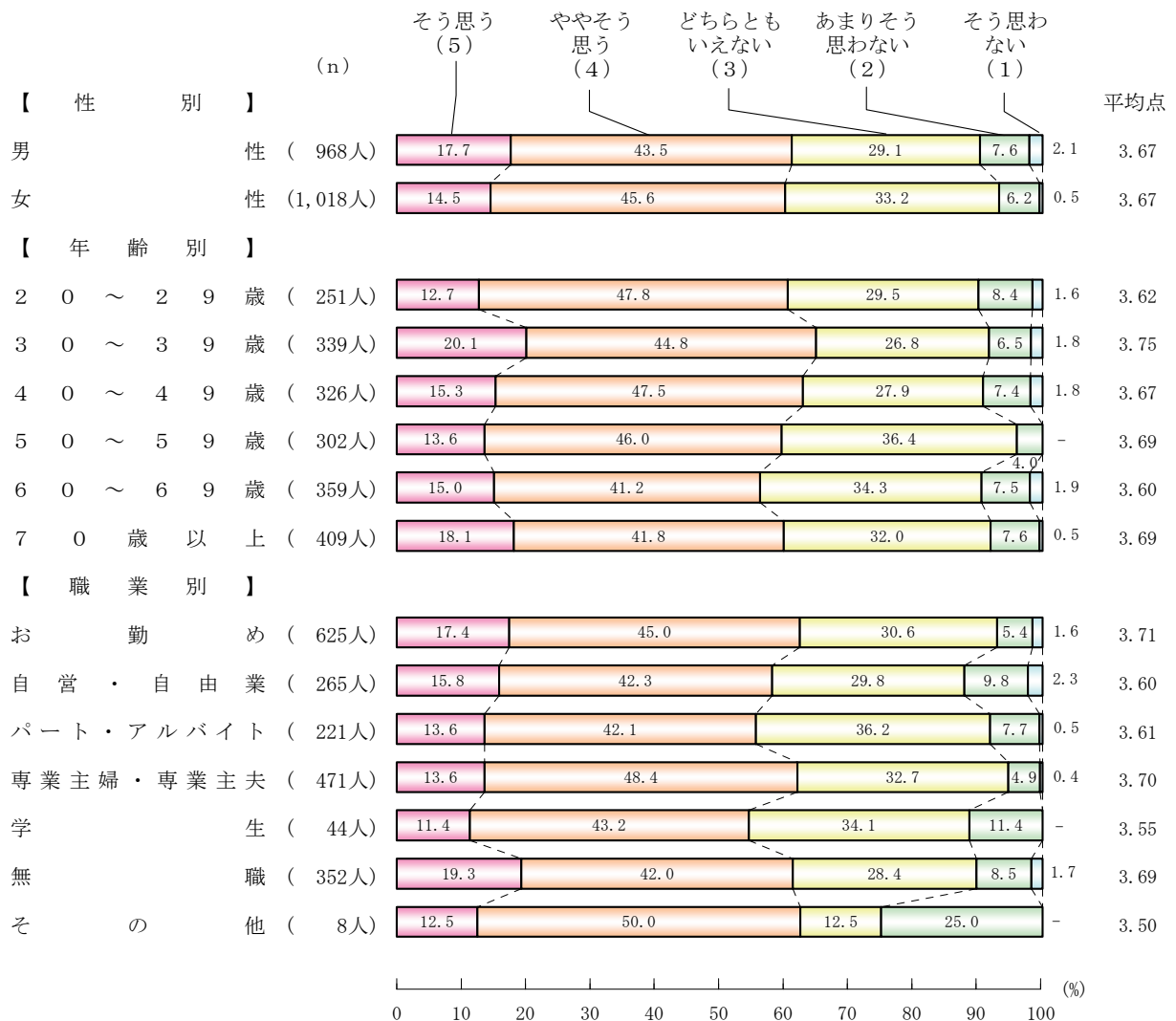


『裁判の結果（判断）がより納得できるものになった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別・年齢別では、大きな差はみられない。職業別では、無職が最も高くなっている。

Q7 (e) 裁判の結果（判断）に国民の感覚が反映されやすくなった

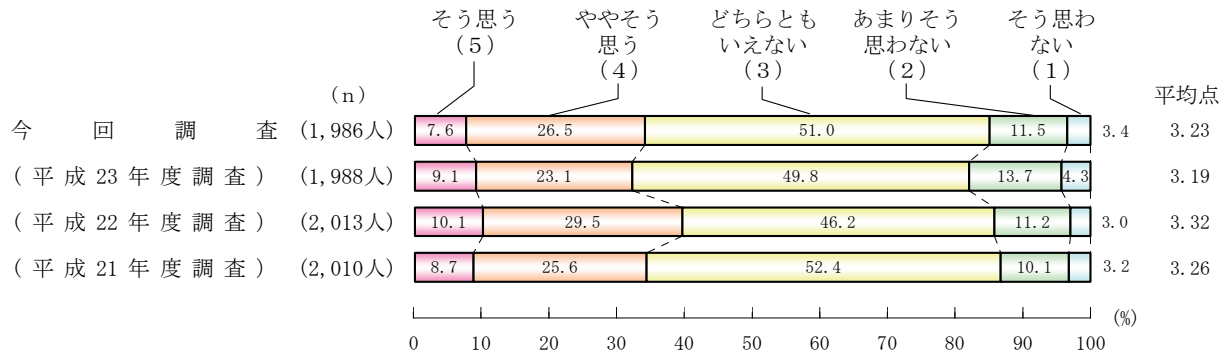


裁判員制度実施後の変化として『裁判の結果（判断）に国民の感覚が反映されやすくなった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は60.6%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は8.2%である。

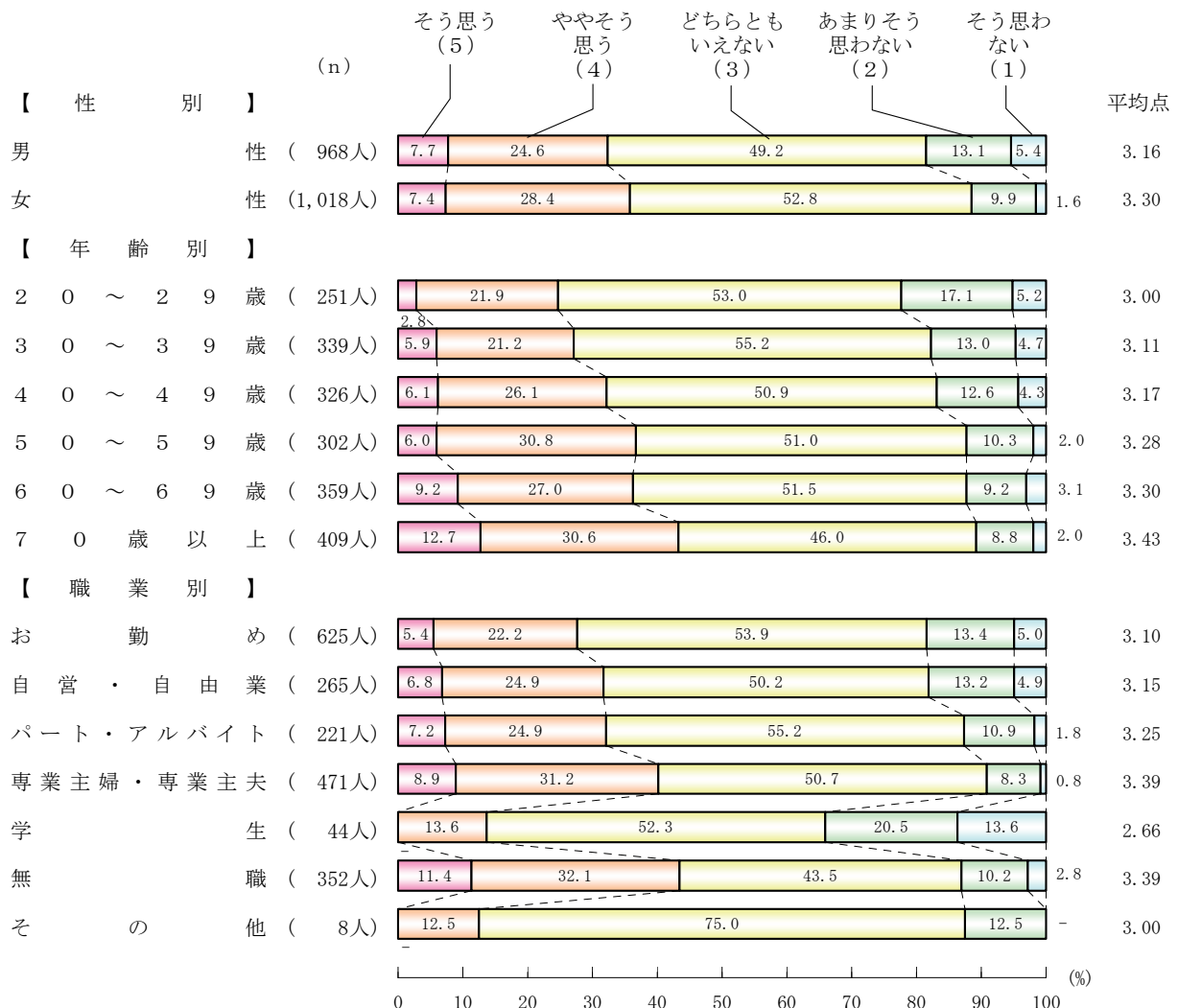


『裁判の結果（判断）に国民の感覚が反映されやすくなった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別・年齢別では、大きな差はみられない。職業別にみても、大きな差はみられない。

Q7 (f) 事件の真相がより解明されている

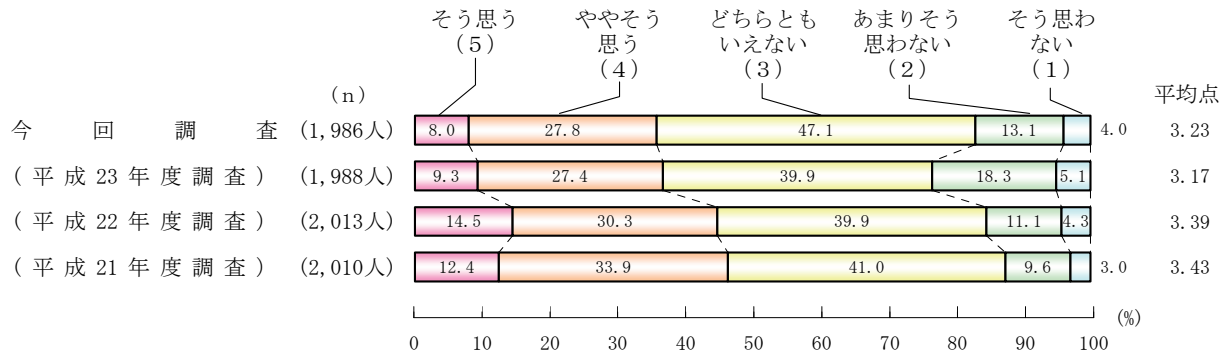


裁判員制度実施後の変化として『事件の真相がより解明されている』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 34.1%，『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は 14.9%である。

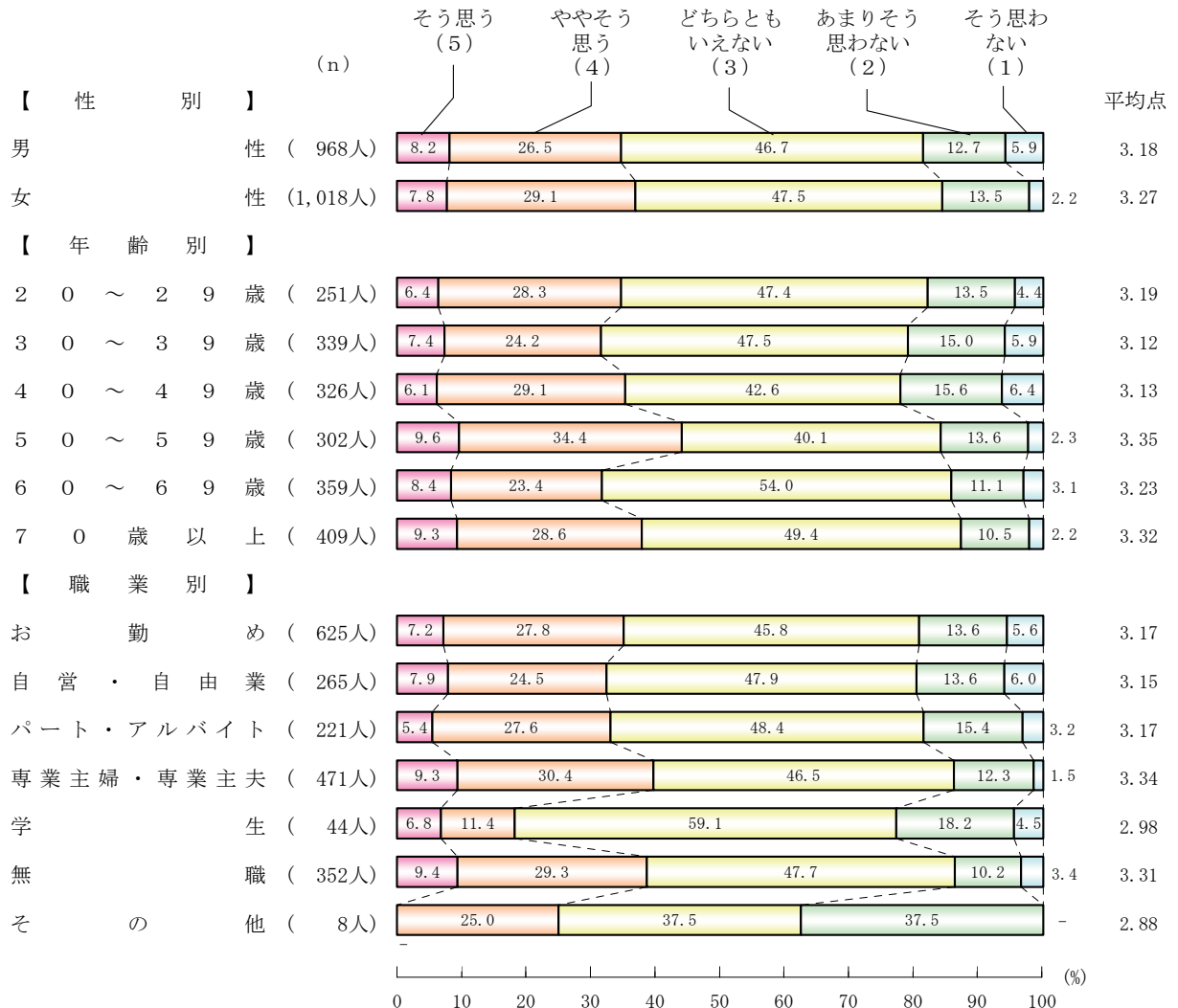


『事件の真相がより解明されている』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、20代が最も低く、70歳以上が最も高くなっている。職業別では、無職が最も高く、学生が最も低くなっている。

Q7 (g) 裁判の手續や内容がわかりやすくなった

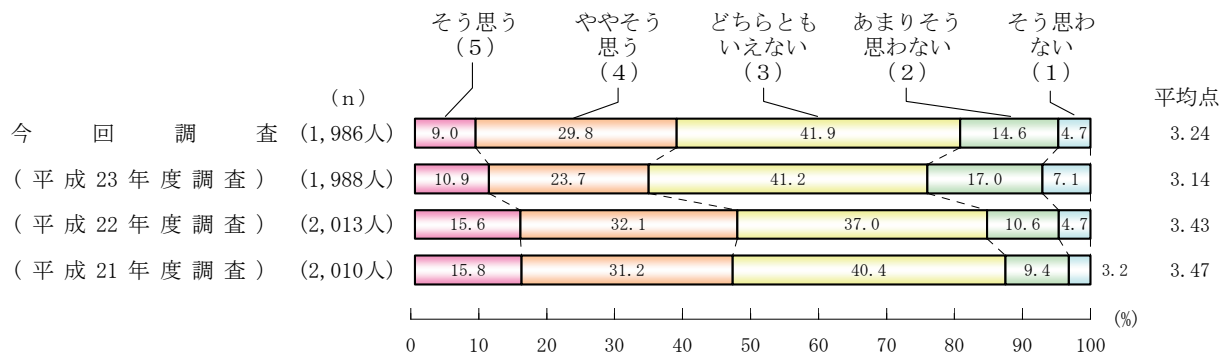


裁判員制度実施後の変化として『裁判の手續や内容がわかりやすくなった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は35.8%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は17.1%である。

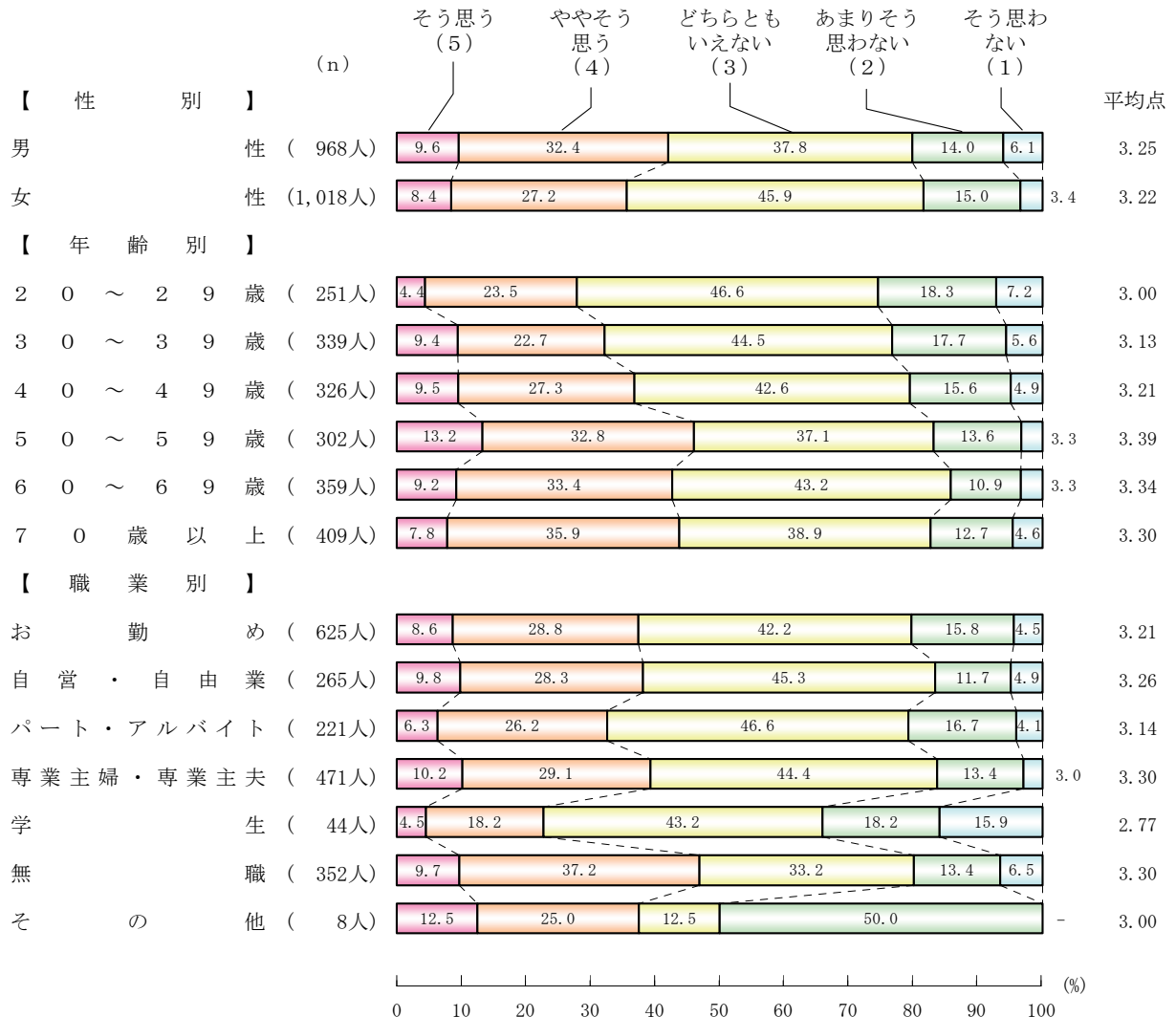


『裁判の手續や内容がわかりやすくなった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、50代が最も高く、職業別では、専業主婦・専業主夫が最も高く、学生が最も低くなっている。

Q7 (h) 裁判が迅速になった

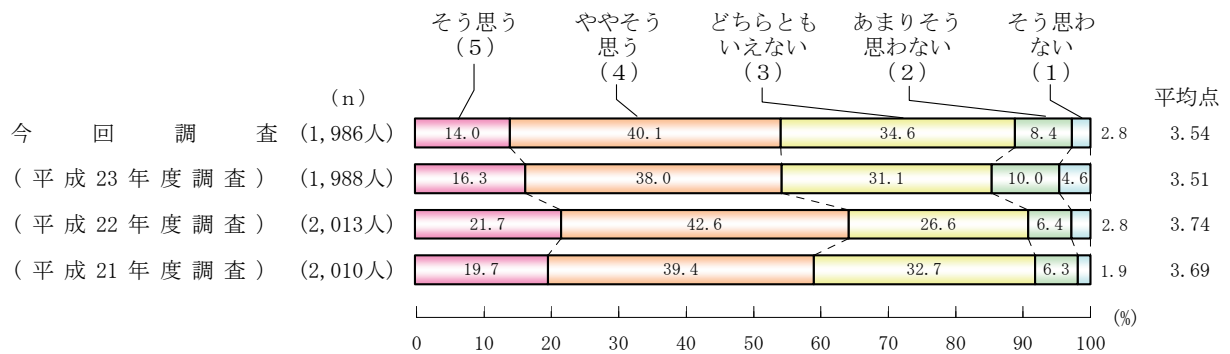


裁判員制度実施後の変化として『裁判が迅速になった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 38.8%，『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は 19.3%である。

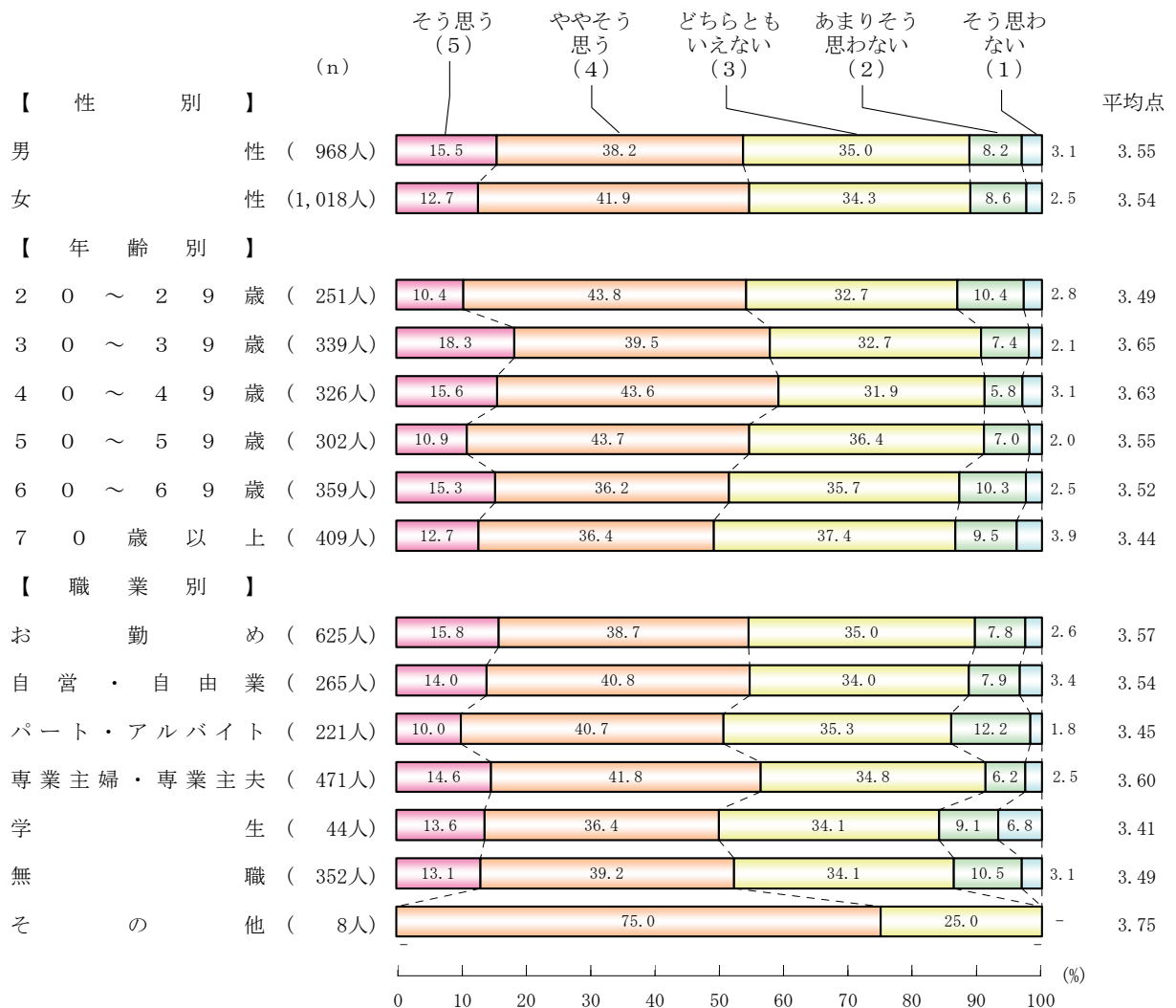


『裁判が迅速になった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、男性が高くなっている。年齢別では、20代が最も低く、50代が最も高くなっている。職業別では、無職が最も高く、学生が最も低くなっている。

Q7 (i) 刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになった



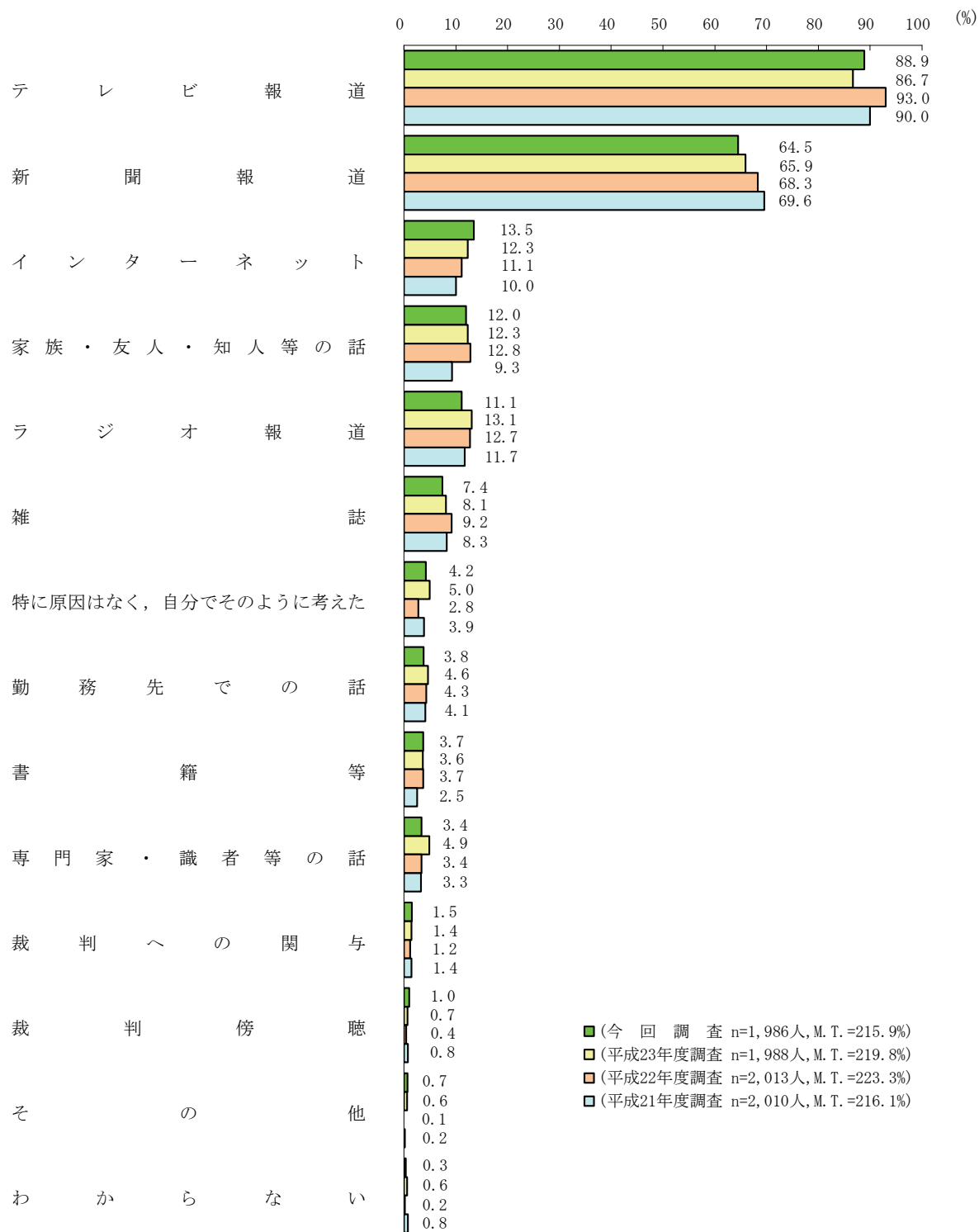
裁判員制度実施後の変化として『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになった』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は54.2%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は11.2%である。



『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになった』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別・職業別では、大きな差はみられない。年齢別では、40代が最も高く、70歳以上が最も低くなっている。

8 裁判員制度についてQ7の印象を持つことになった原因

Q8 [回答票8] あなたが前問のような印象を持つことになった原因は何ですか。当てはまるものを、次の中から全てあげてください。(M. A.)



現在実施されている裁判員制度についてQ7の印象を持つことになった原因を聞いたところ、「テレビ報道」が88.9%と最も高く、次いで「新聞報道」が64.5%であった。以下、「インターネット」(13.5%)、「家族・友人・知人等の話」(12.0%)、「ラジオ報道」(11.1%)となっている。

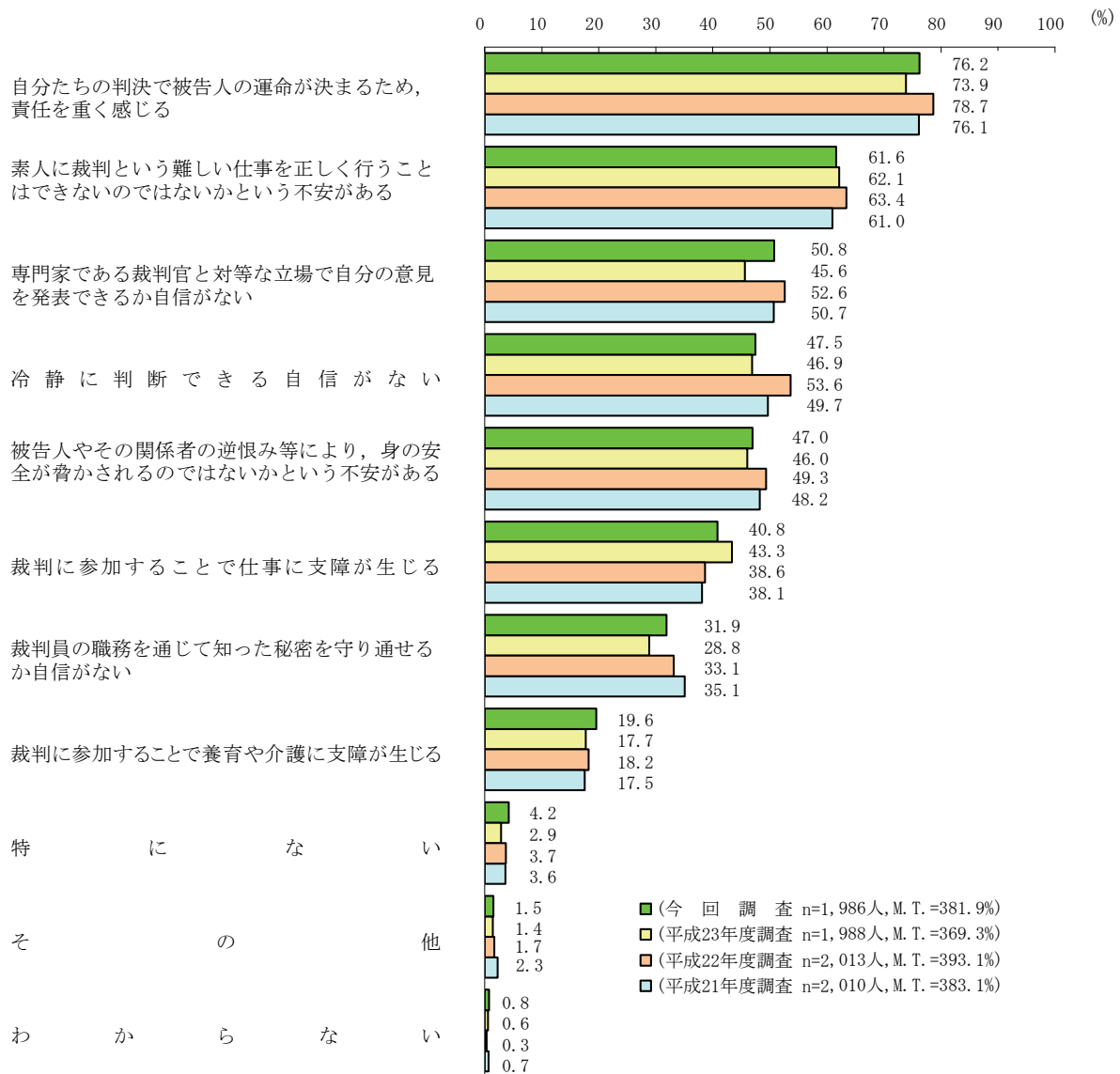
	該当数 (n)	新聞報道	雑誌	書籍等	テレビ報道	ラジオ報道	インターネット	裁判への関与	裁判傍聴	家族・友人・知人等の話	勤務先での話	専門家・識者等の話	特に原因はなく、自分で そう考えた	その他	わからない	回答計
F 1 【性】																
男性	968	67.9	9.4	5.6	86.8	13.1	19.5	2.4	1.5	9.8	6.0	4.1	4.9	0.5	0.2	231.7
女性	1018	61.2	5.4	2.0	91.0	9.1	7.8	0.6	0.4	14.1	1.8	2.8	3.5	0.9	0.4	200.9
F 2 【年齢】																
20～29歳	251	30.7	1.6	2.0	83.3	3.6	26.7	0.4	-	10.0	3.2	0.8	9.2	1.6	0.8	173.7
30～39歳	339	50.1	6.8	3.8	84.1	9.1	21.2	1.8	1.5	10.3	6.5	2.9	5.0	0.3	0.3	203.8
40～49歳	326	68.4	7.4	4.0	89.9	9.8	18.1	1.2	-	12.9	5.2	5.2	3.4	0.3	-	225.8
50～59歳	302	73.8	8.9	4.3	92.4	15.6	11.9	2.3	1.7	14.2	4.6	4.3	2.6	0.7	-	237.4
60～69歳	359	81.1	12.5	5.3	91.1	15.3	8.1	1.7	1.4	13.6	3.3	3.9	3.3	1.1	0.3	242.1
70歳以上	409	72.4	5.6	2.7	91.2	11.2	1.2	1.2	1.0	11.0	0.7	2.9	2.9	0.5	0.5	205.1
F 3 【職業】																
お勤め	625	60.0	7.4	4.8	84.2	11.5	21.8	1.9	1.1	9.9	8.6	3.5	5.3	0.8	-	220.8
自営・自由業	265	69.8	9.4	5.7	92.1	17.0	14.7	2.6	1.1	15.5	0.8	4.9	2.6	1.1	-	237.4
パート・アルバイト	221	60.2	8.6	1.8	94.1	8.6	10.0	0.5	1.8	15.8	4.5	2.7	2.3	-	-	210.9
専業主婦・専業主夫	471	65.2	5.9	2.1	90.9	9.1	7.0	0.6	0.4	14.2	0.4	3.2	3.6	0.4	0.6	203.8
学生	44	40.9	4.5	4.5	75.0	2.3	34.1	2.3	-	9.1	2.3	-	20.5	4.5	2.3	202.3
無職	352	72.7	7.1	3.4	90.6	11.1	5.7	1.4	0.9	8.2	2.0	3.4	3.4	0.6	0.6	211.1
その他	8	75.0	12.5	12.5	100.0	12.5	37.5	-	-	12.5	-	-	-	-	-	262.5

男女別にみると、「テレビ報道」、「家族・友人・知人等の話」は女性で高く、「新聞報道」、「インターネット」、「ラジオ報道」は男性で高くなっている。年齢別にみると、「テレビ報道」は50代で高く、「新聞報道」は50代以上で高く、「インターネット」は20代～40代で高くなっている。職業別にみると、「テレビ報道」はパート・アルバイトで高く、「新聞報道」は無職で高く、「インターネット」はお勤め、学生で高くなっている。

9 裁判に参加する場合の心配や支障となるもの

Q9 [回答票9] あなたが刑事裁判に参加するとした場合、あなたにとって心配や支障となるものはどれですか。当てはまるものを、この中からすべてあげてください。

(M. A.)



刑事裁判に参加するとした場合に心配や支障となるものとしては、「自分たちの判決で被告人の運命が決まるため、責任を重く感じる」が76.2%と最も高く、以下、「素人に裁判という難しい仕事を正しく行うことはできないのではないかと不安がある」(61.6%)、「専門家である裁判官と対等な立場で自分の意見を発表できるか自信がない」(50.8%)、「冷静に判断できる自信がない」(47.5%)、「被告人やその関係者の逆恨み等により、身の安全が脅かされるのではないかと不安がある」(47.0%)などとなっている。

	該当数 (n)	自分たちの判決で被告人の運命が決まるため、責任を重く感じる	素人に裁判という難しい仕事を正しく行うことはできないのではないかという不安がある	専門家である裁判官と対等な立場で自分の意見を発表できるか自信がない	冷静に判断できる自信がない	被告人やその関係者の逆恨み等により、身の安全が脅かされるのではないかと不安がある	裁判員の職務を通じて知った秘密を守り通せるか自信がない	裁判に参加することで仕事に支障が生じる	裁判に参加することで養育や介護に支障が生じる	特になし	その他	わからない	回答計
F 1 【性】													
男性	968	69.6	56.0	43.0	39.4	42.0	31.8	47.9	14.2	5.8	1.4	0.8	352.0
女性	1018	82.5	66.9	58.3	55.3	51.7	32.0	34.1	24.8	2.7	1.5	0.7	410.3
F 2 【年齢】													
20～29歳	251	71.3	56.2	42.2	37.8	45.8	21.9	39.0	12.0	5.2	-	-	331.5
30～39歳	339	77.6	57.5	47.2	40.4	57.5	36.6	48.7	26.5	2.1	0.3	0.3	394.7
40～49歳	326	75.5	57.1	43.9	42.9	47.5	31.6	62.3	21.8	3.4	-	0.3	386.2
50～59歳	302	83.1	65.9	54.0	52.6	48.3	34.4	53.0	21.9	1.7	1.0	0.3	416.2
60～69歳	359	78.8	66.6	57.1	55.4	47.4	39.8	32.9	22.0	4.7	1.4	1.1	407.2
70歳以上	409	71.4	64.3	56.7	52.3	37.2	25.7	16.4	13.0	7.3	4.9	2.0	351.1
F 3 【職業】													
お勤め	625	74.2	53.4	41.1	39.0	46.2	32.3	60.2	17.8	3.5	0.5	-	368.3
自営・自由業	265	73.6	67.2	48.7	44.5	50.2	32.8	64.5	16.2	1.9	1.1	1.1	401.9
パート・アルバイト	221	81.9	67.0	57.0	51.1	53.8	33.5	48.9	26.2	3.6	-	0.9	424.0
専業主婦・専業主夫	471	83.0	66.9	60.5	56.5	48.8	31.0	16.3	25.3	4.2	1.7	0.6	394.9
学生	44	70.5	63.6	36.4	38.6	47.7	25.0	34.1	9.1	2.3	-	-	327.3
無職	352	69.6	61.9	54.8	52.0	39.2	31.8	17.0	15.3	7.7	4.3	2.0	355.7
その他	8	87.5	25.0	37.5	37.5	37.5	25.0	50.0	-	-	-	-	300.0

男女別にみると、上位5項目はいずれも女性で高くなっている。年齢別にみると、「自分たちの判決で被告人の運命が決まるため、責任を重く感じる」は50代で高く、「素人に裁判という難しい仕事を正しく行うことはできないのではないかという不安がある」は60代で高く、「専門家である裁判官と対等な立場で自分の意見を発表できるか自信がない」は60代以上で高くなっている。職業別にみると、「自分たちの判決で被告人の運命が決まるため、責任を重く感じる」はパート・アルバイト、専業主婦・専業主夫で高く、「素人に裁判という難しい仕事を正しく行うことはできないのではないかという不安がある」は専業主婦・専業主夫、自営・自由業で高く、「専門家である裁判官と対等な立場で自分の意見を発表できるか自信がない」は専業主婦・専業主夫で高くなっている。